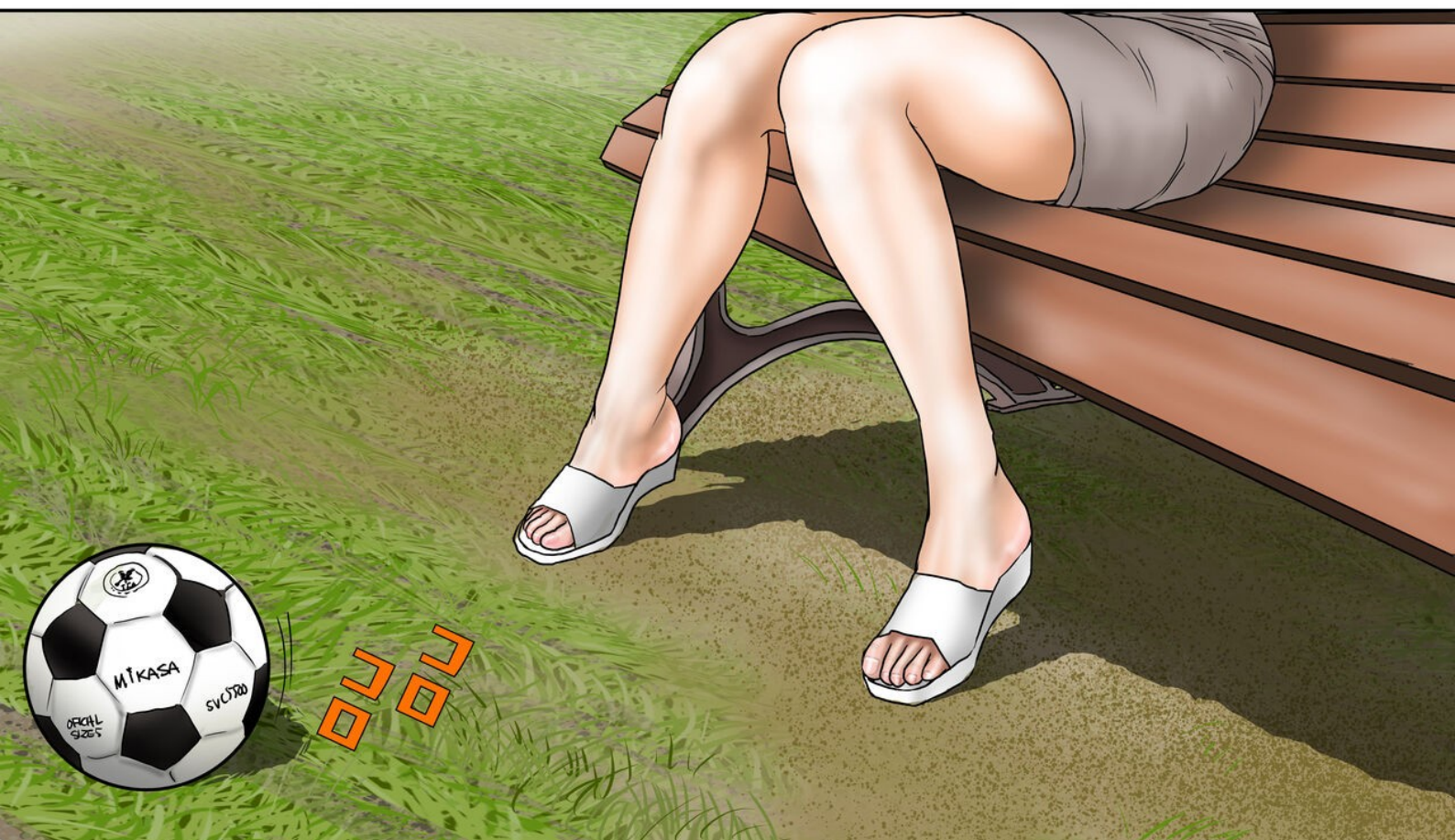
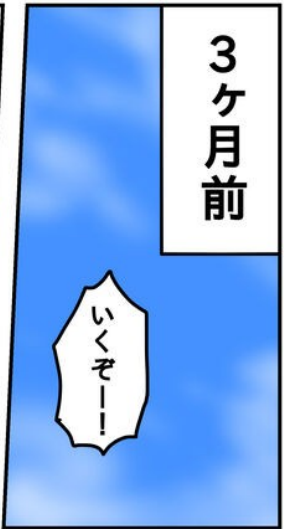


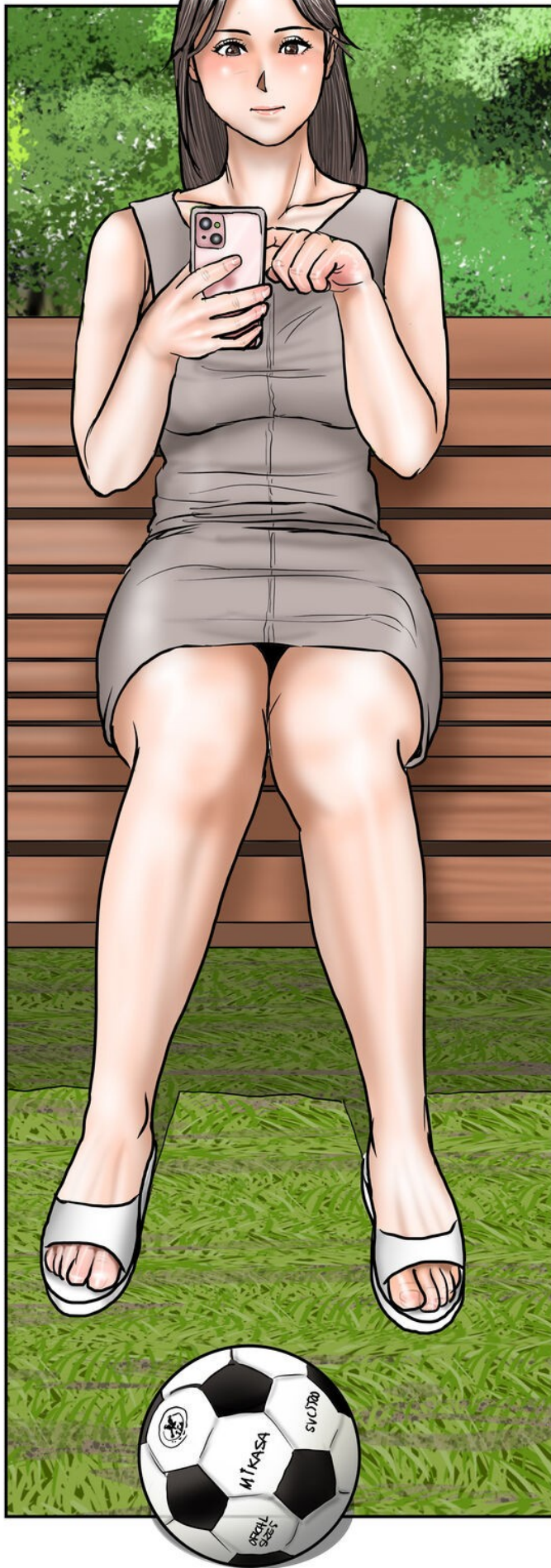
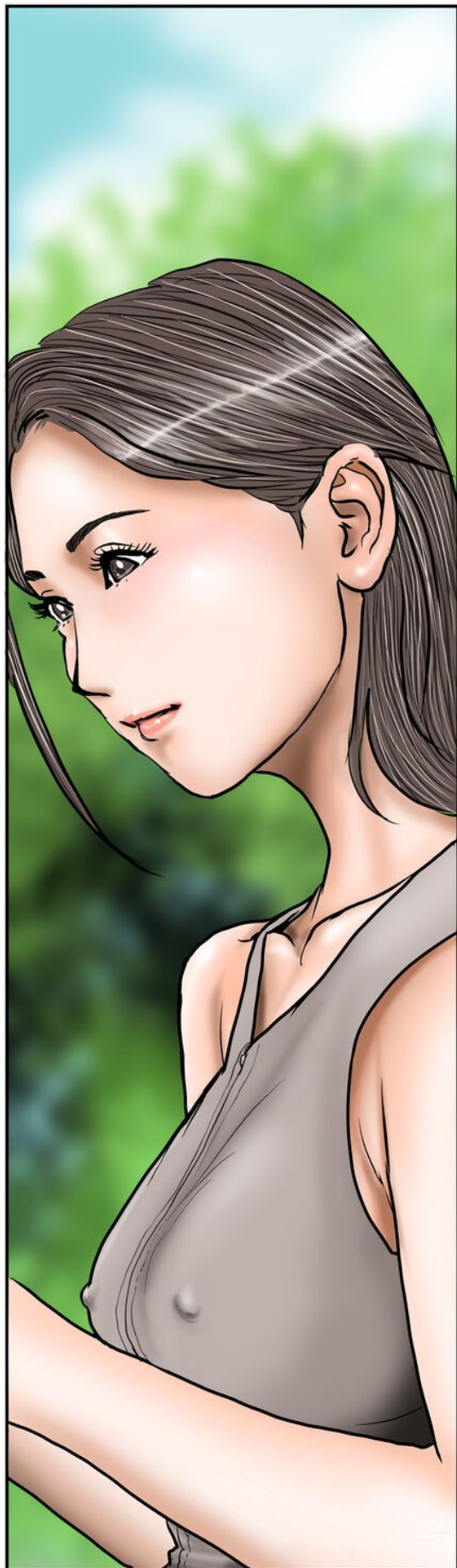


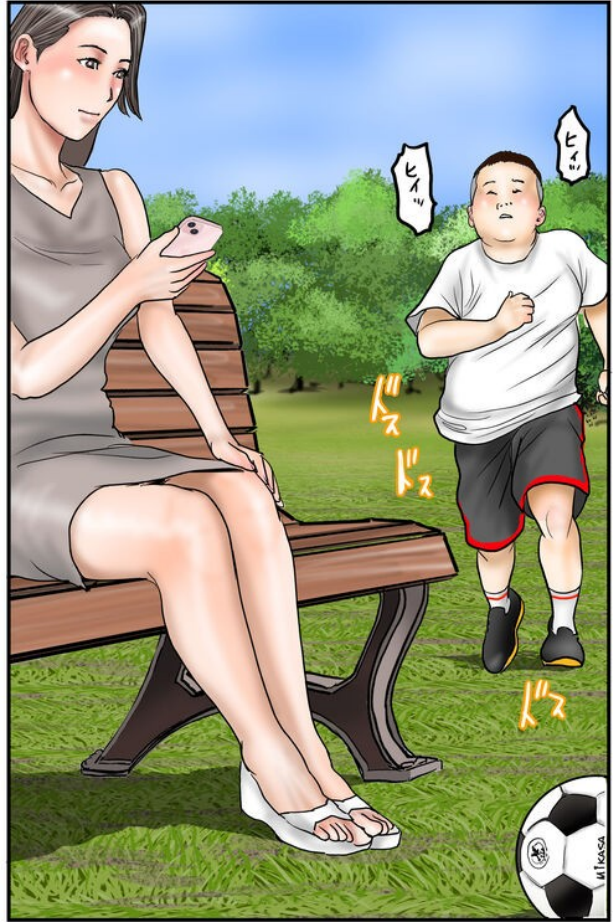
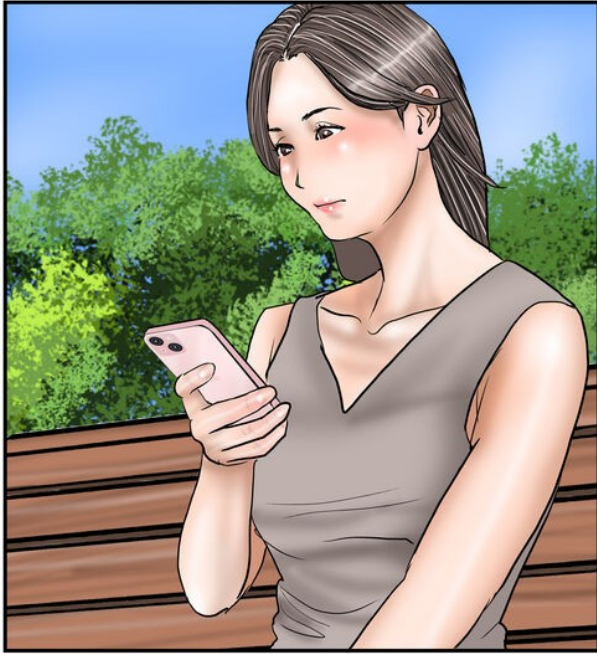
友達が連れて来たオバさん

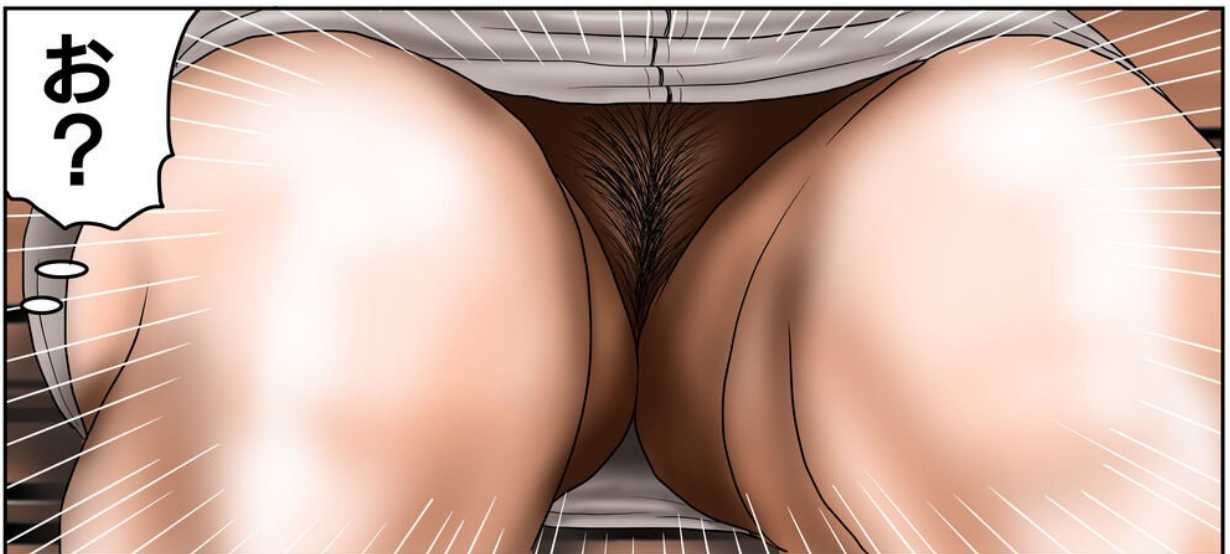
②

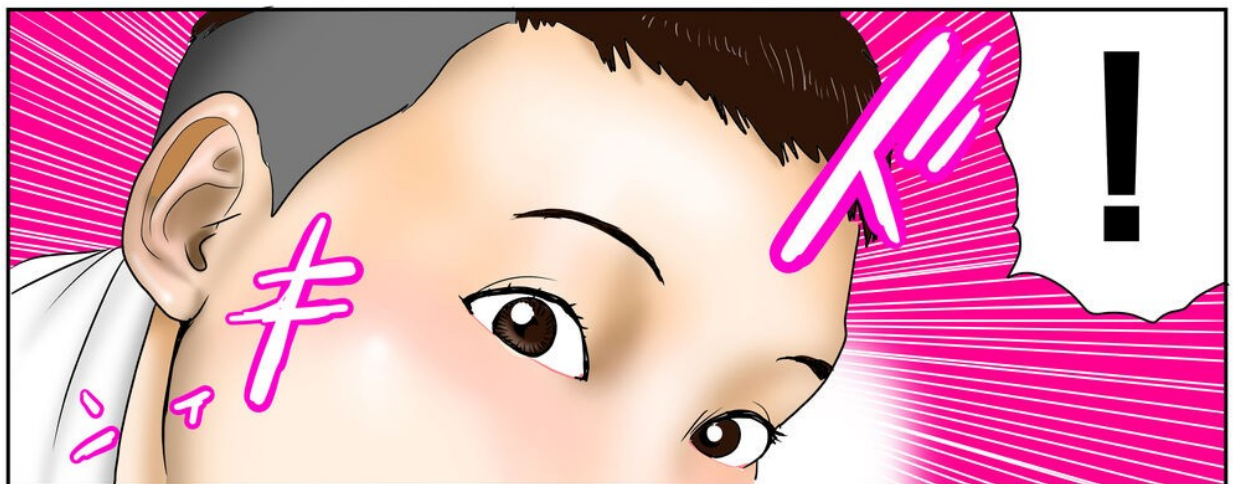
EXIT ↑

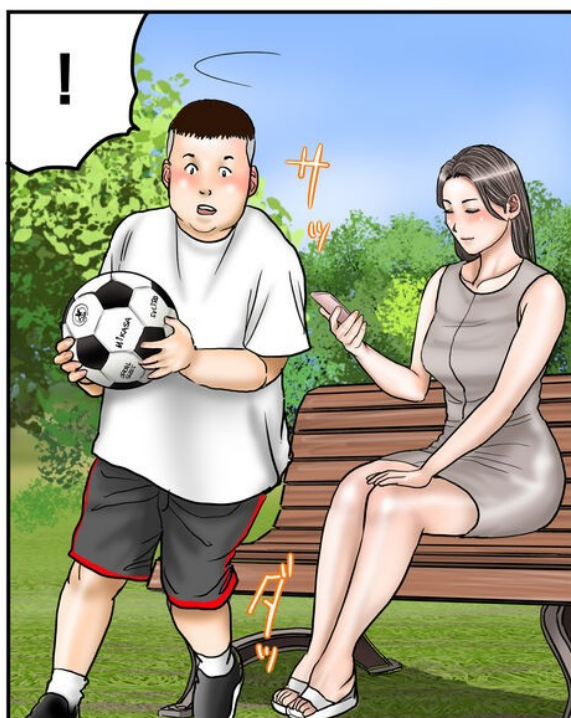
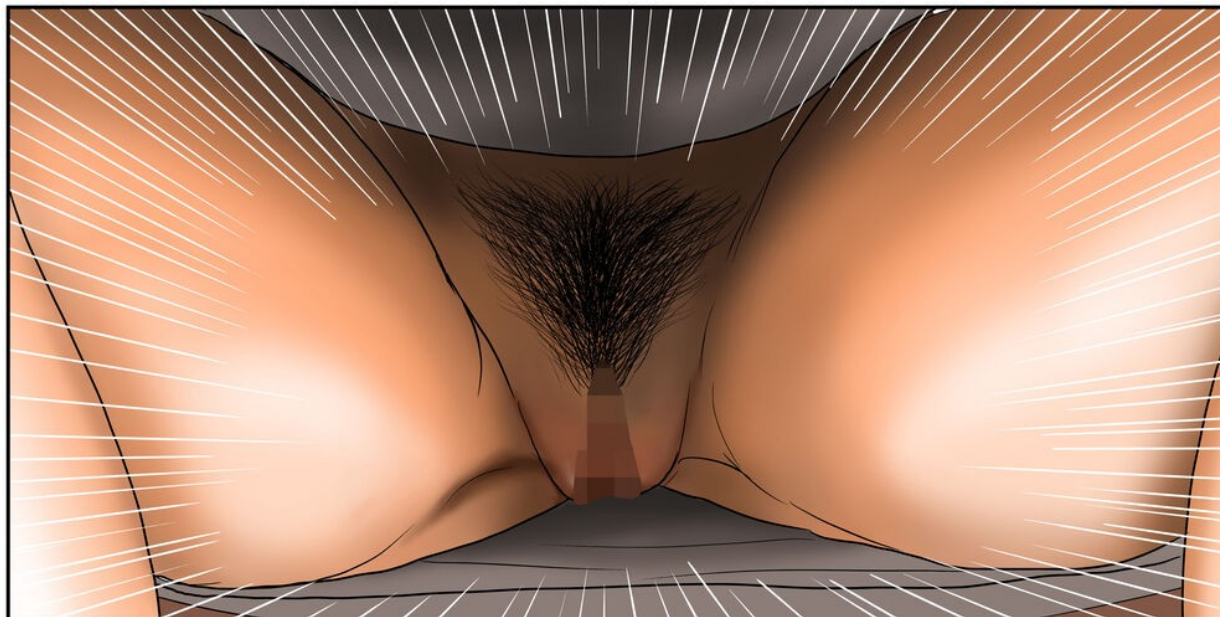


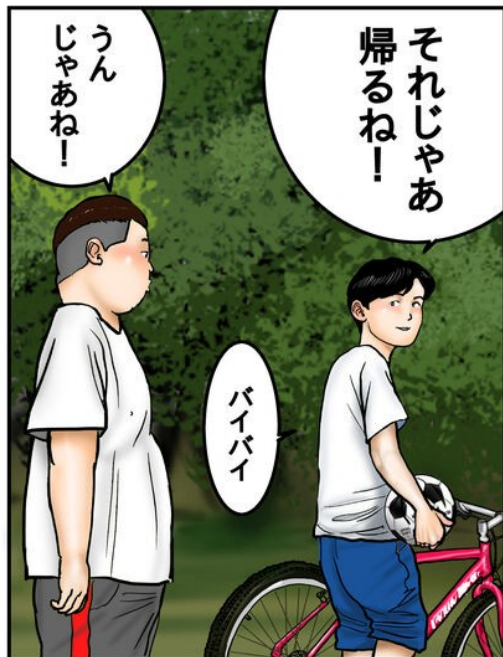


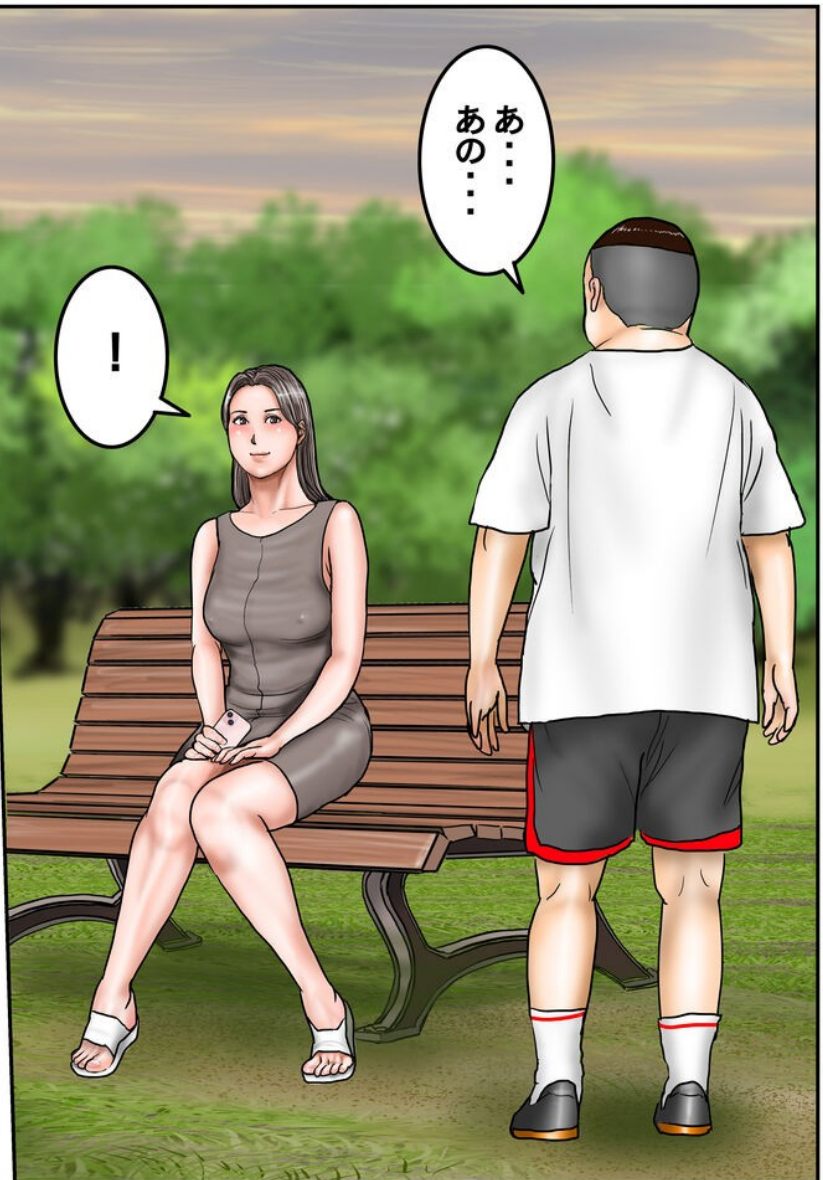
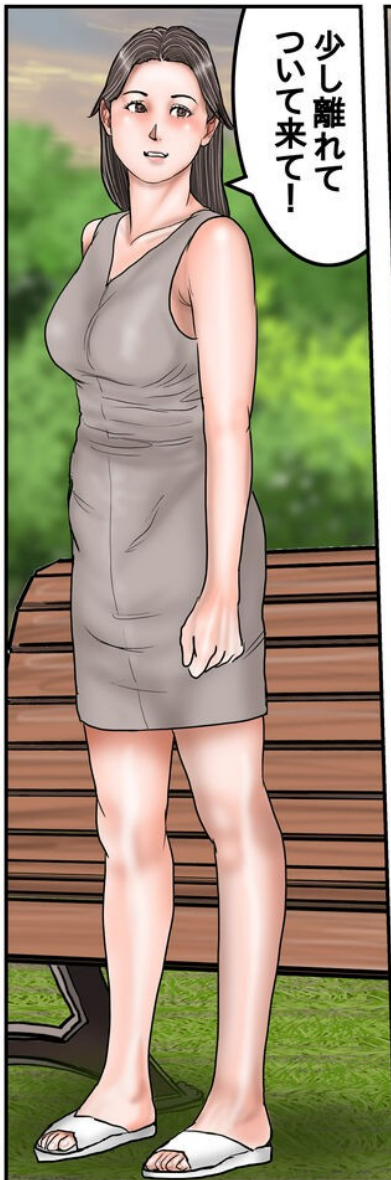
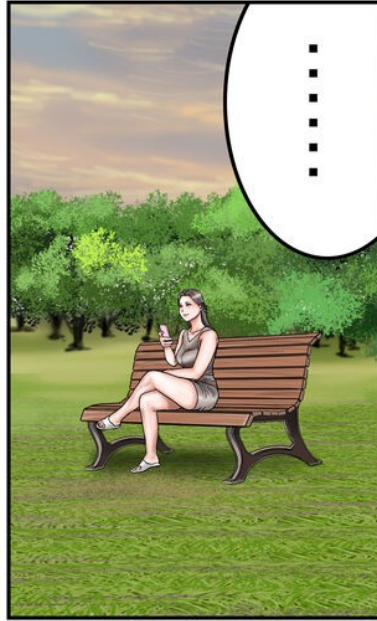
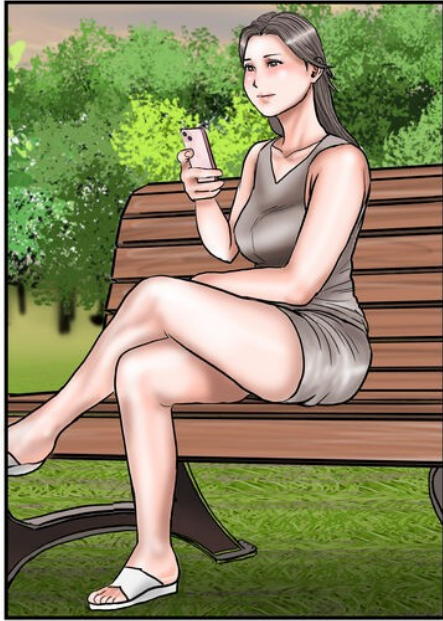


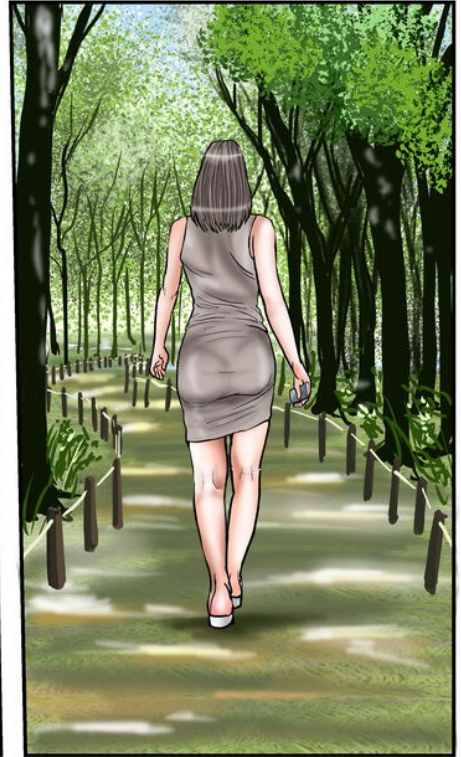


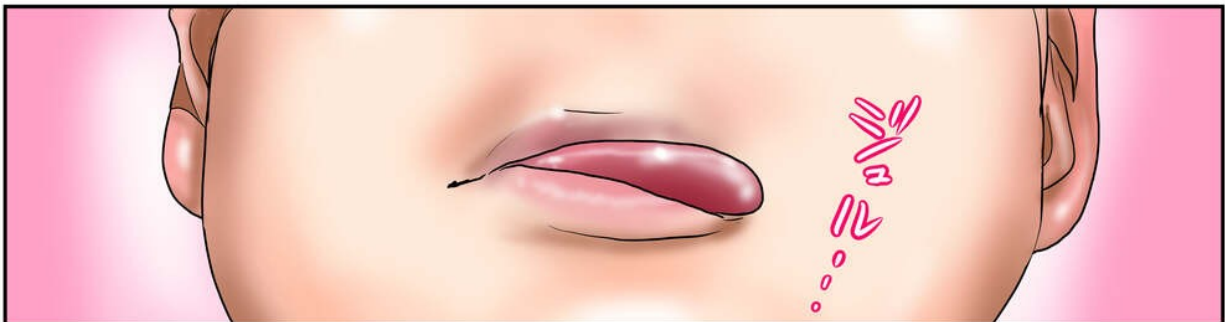
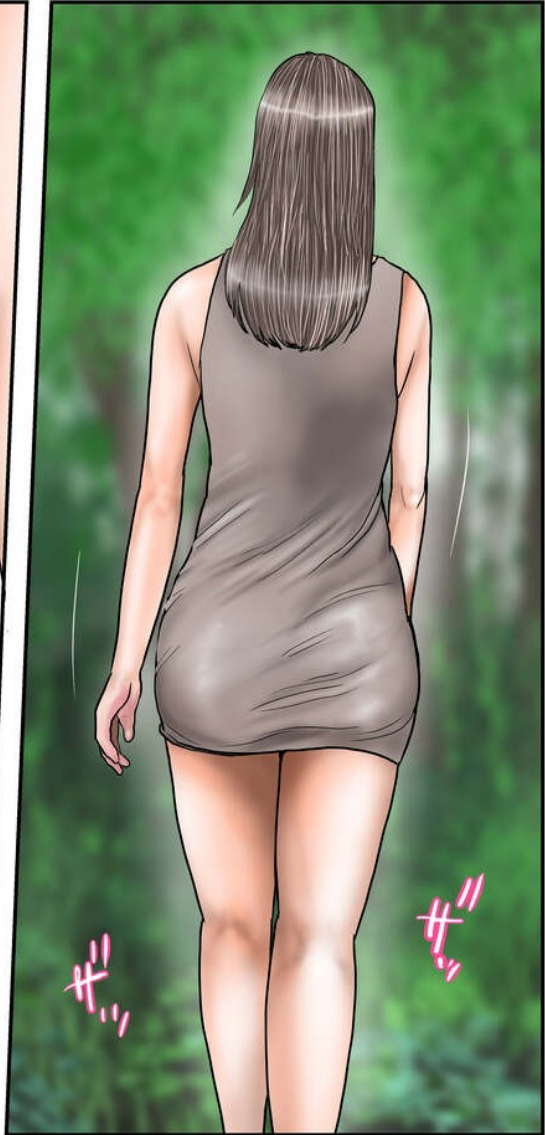
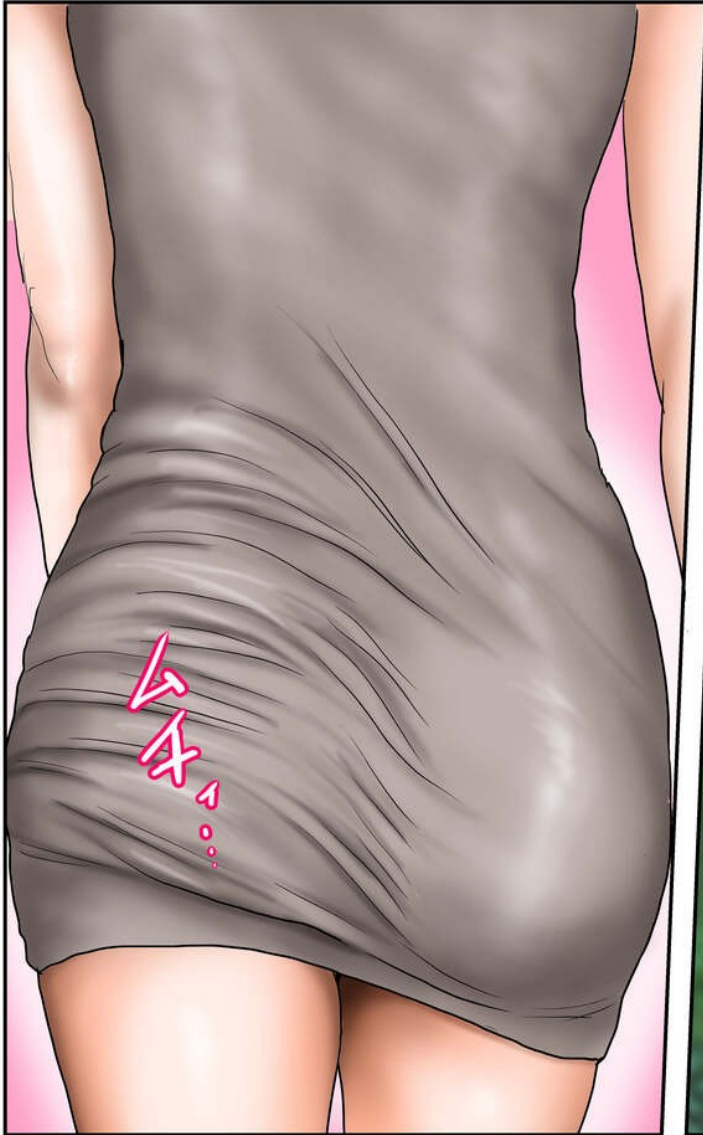


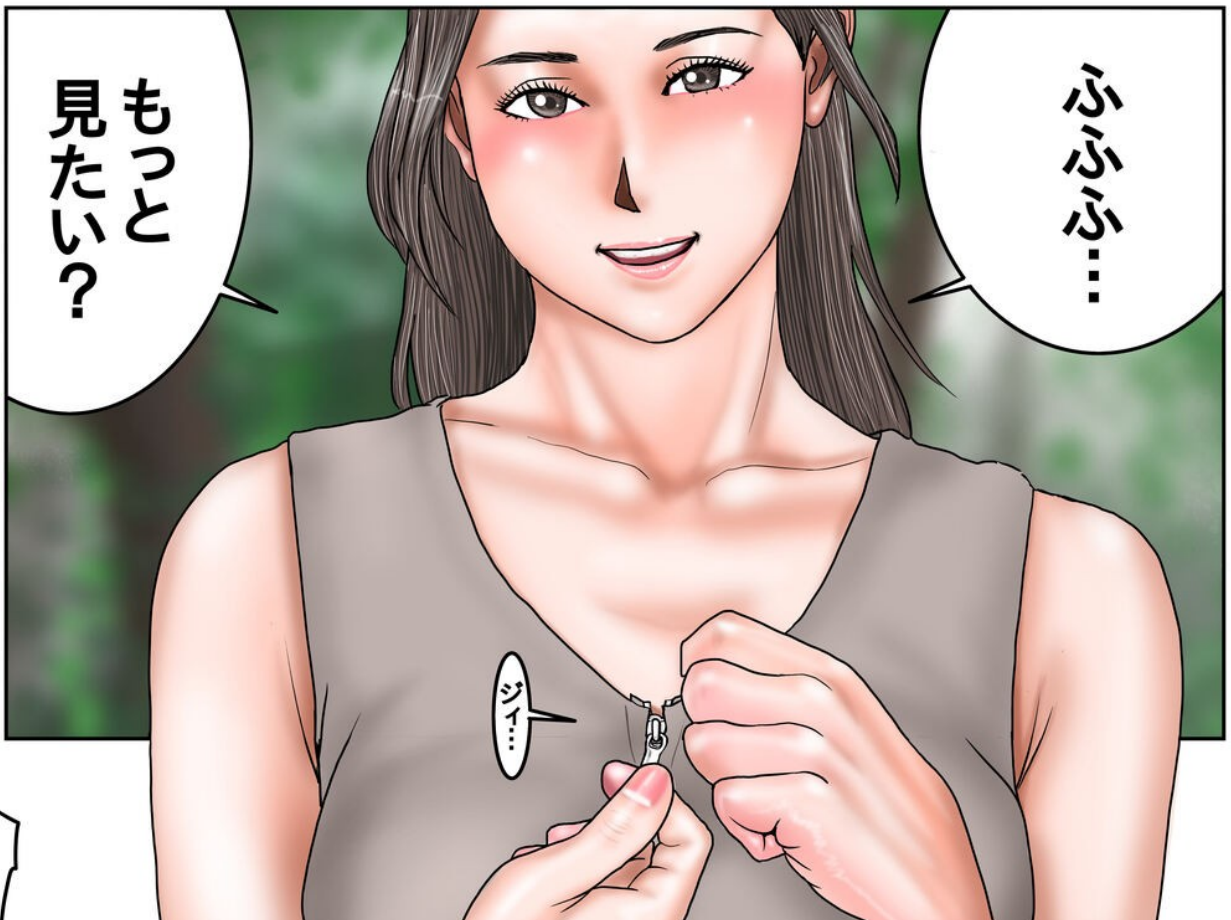


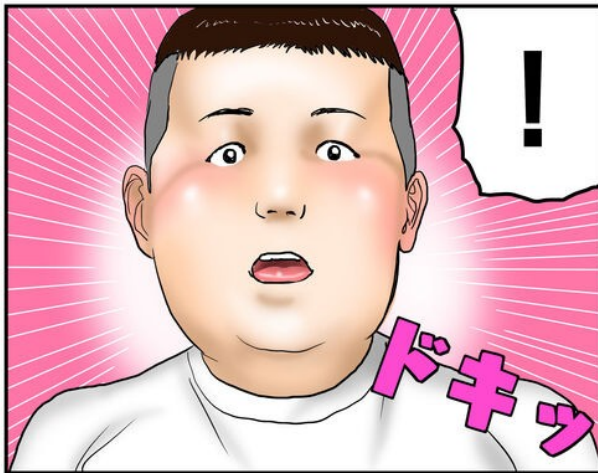
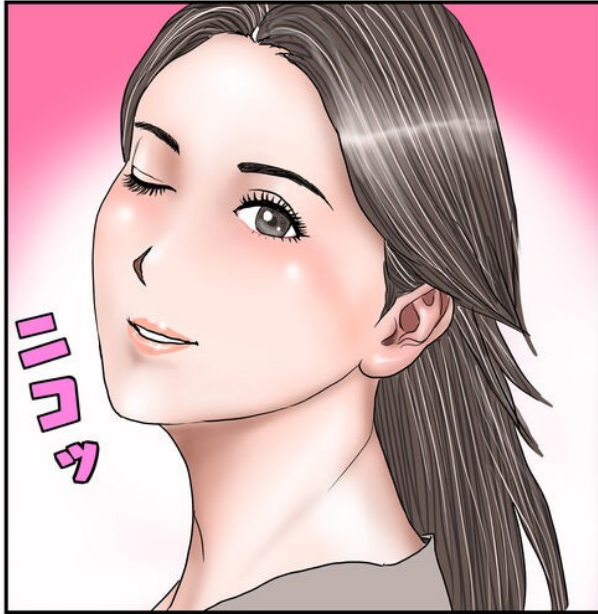




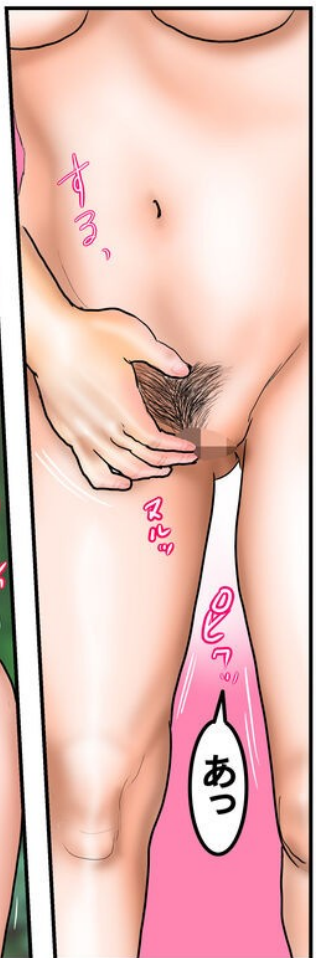


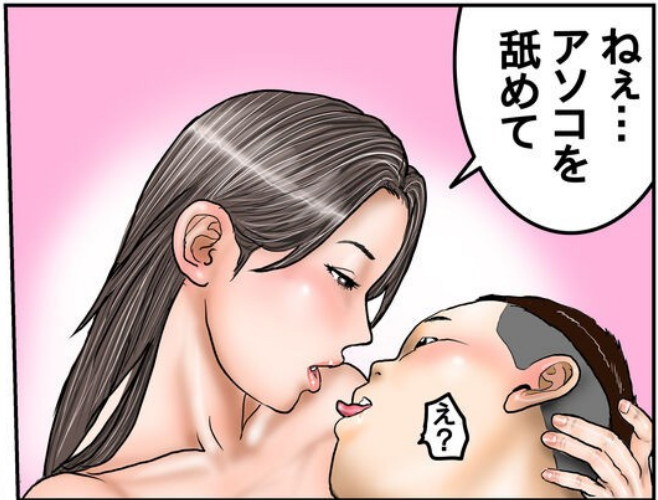


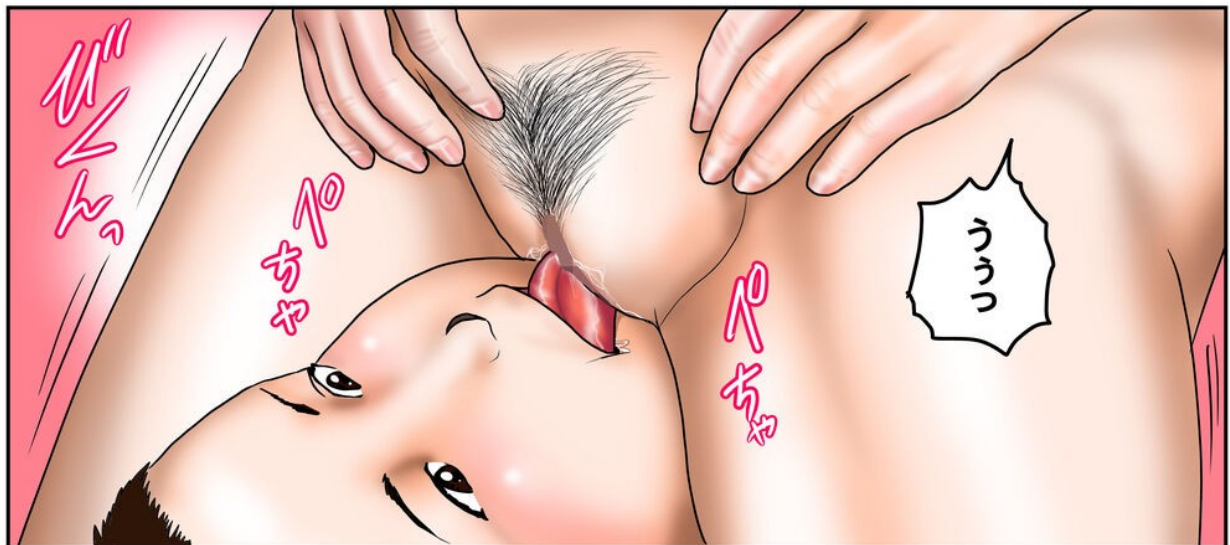
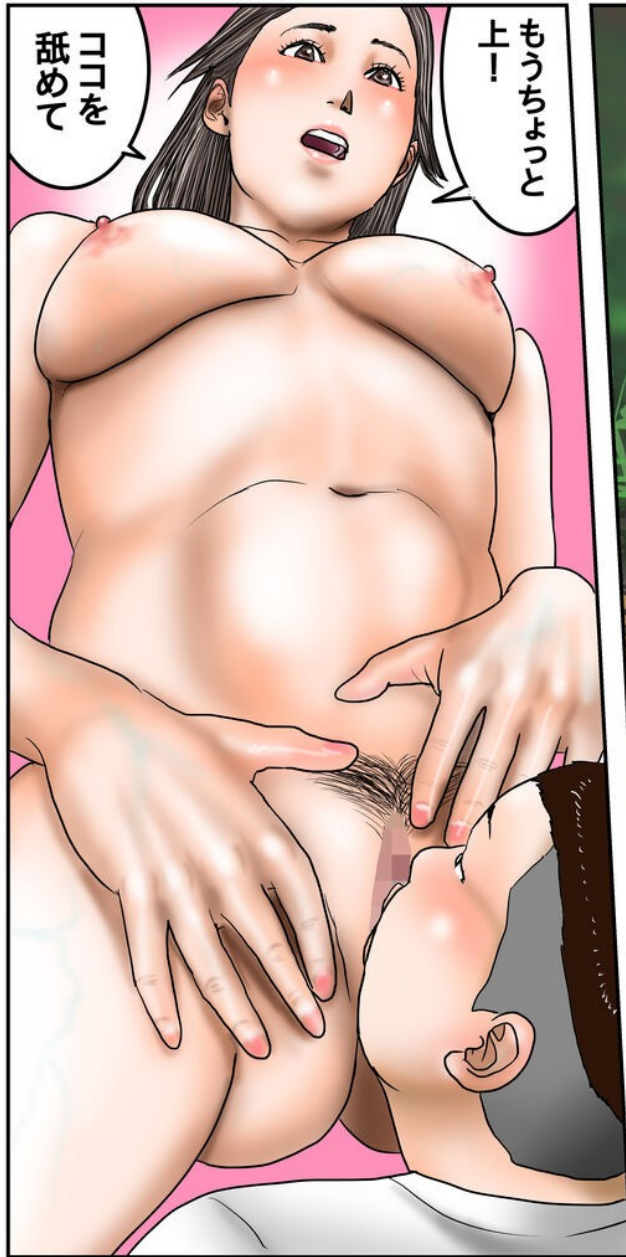


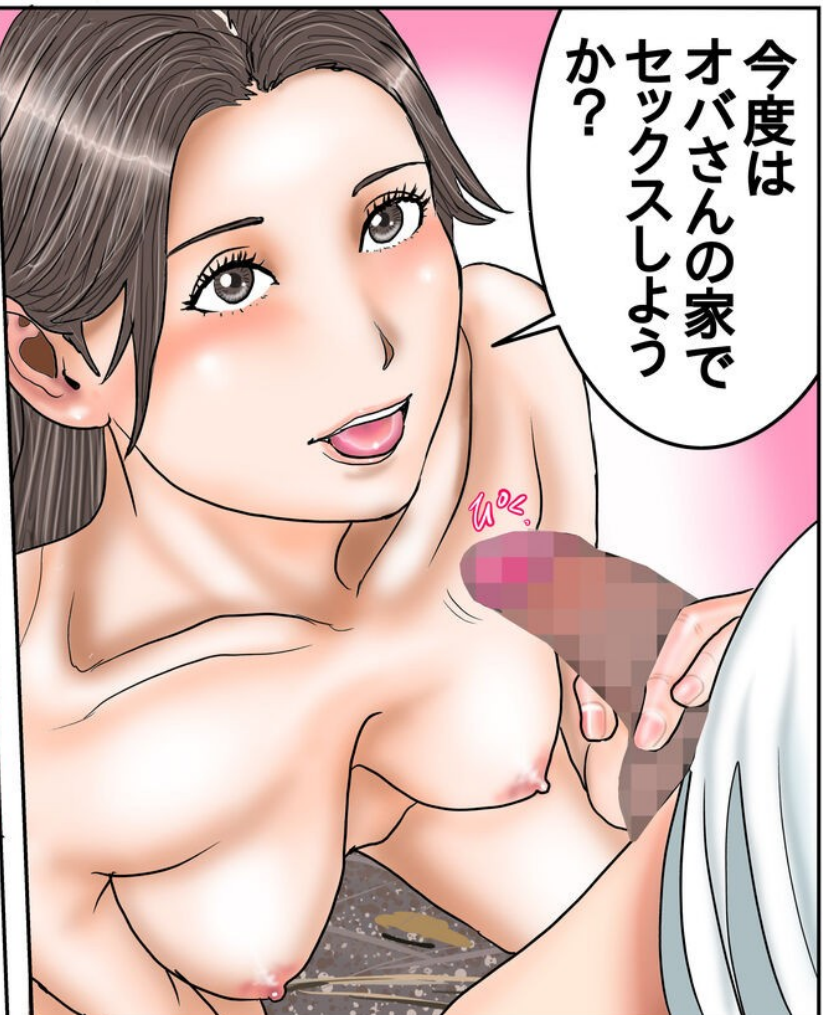
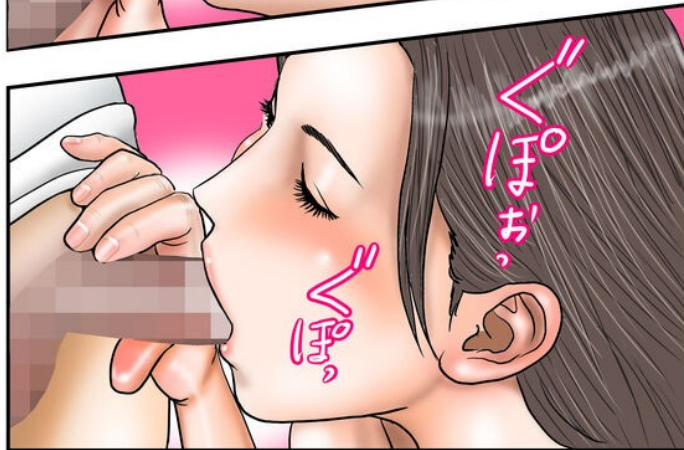
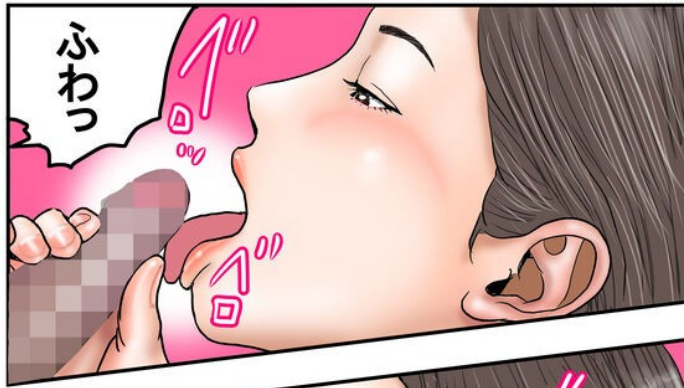




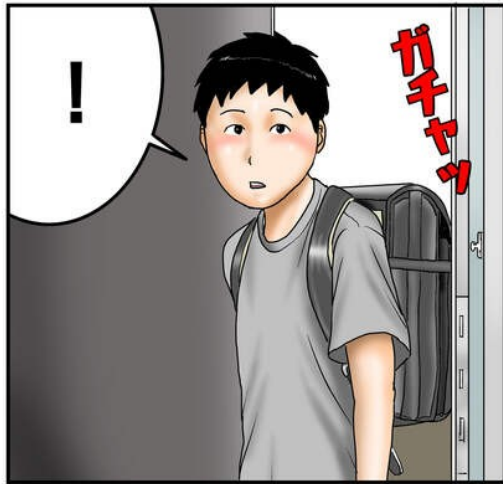


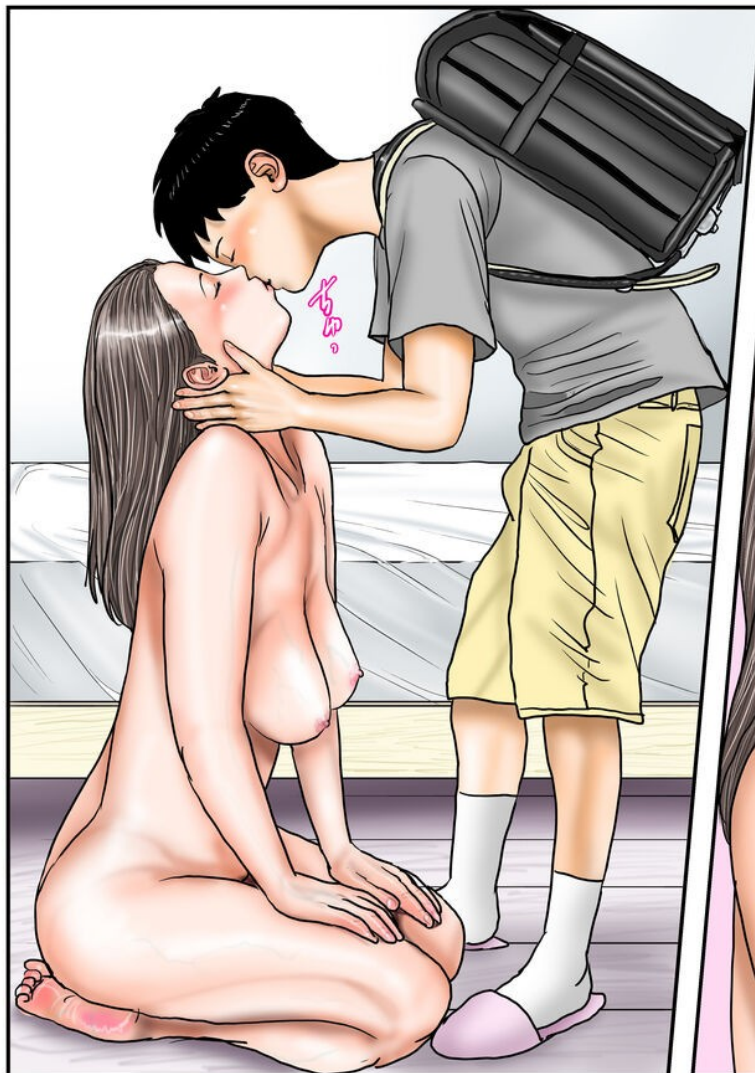
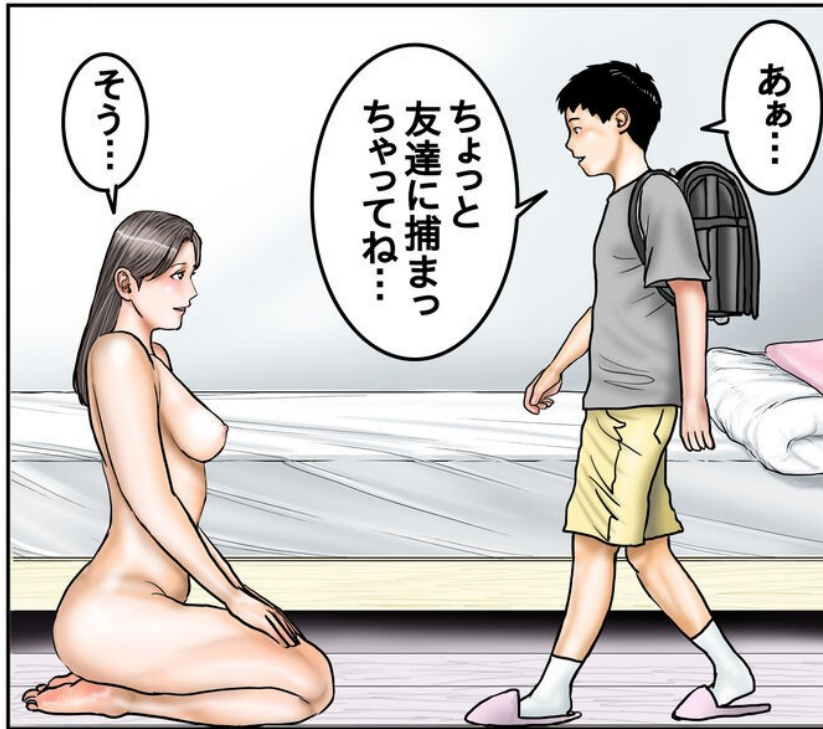








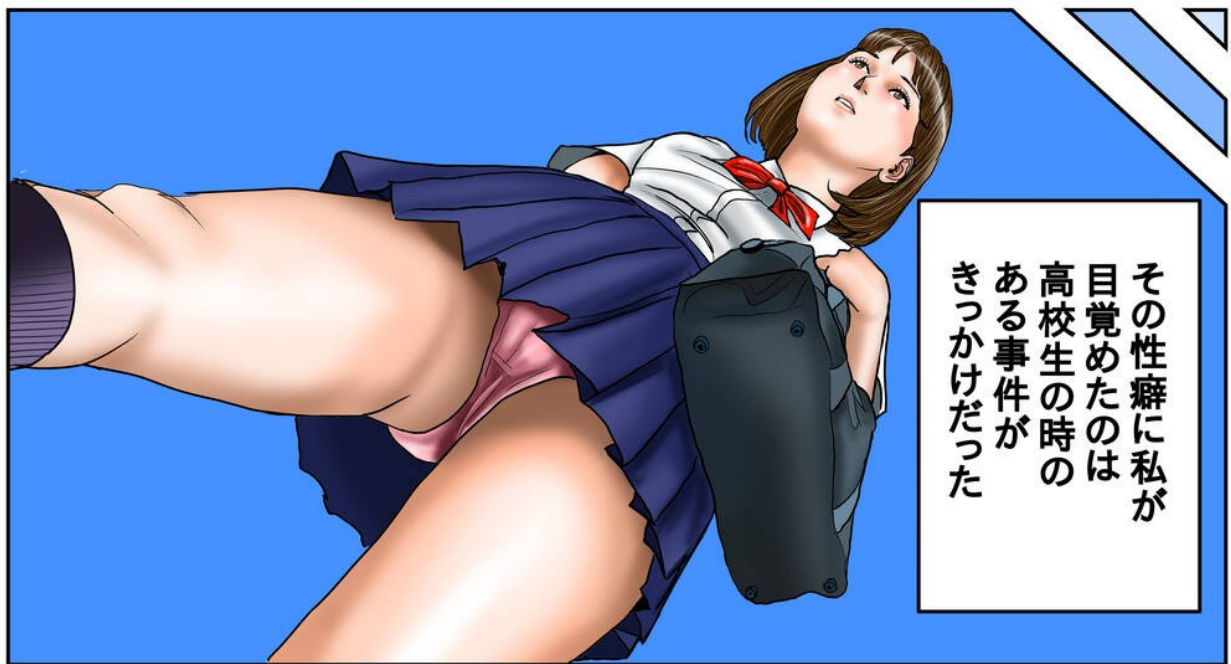




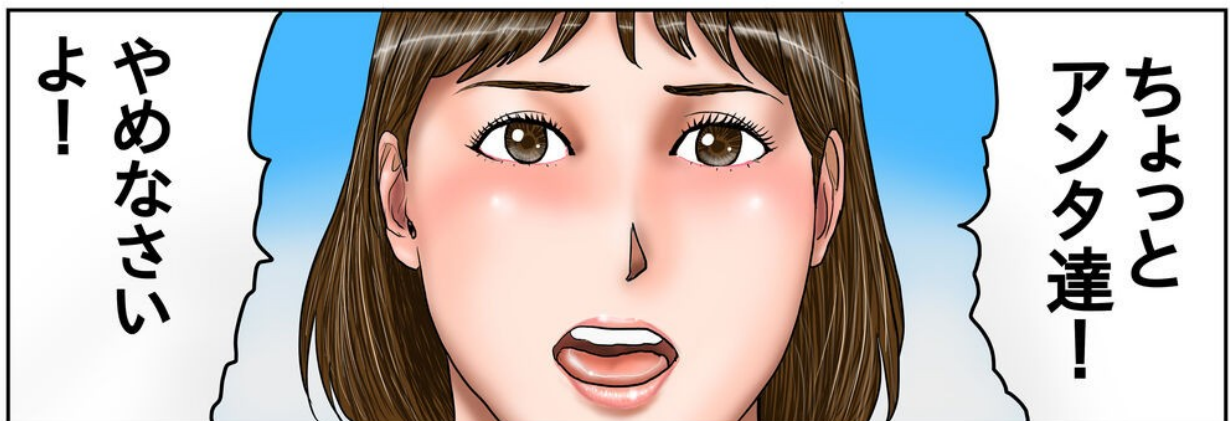
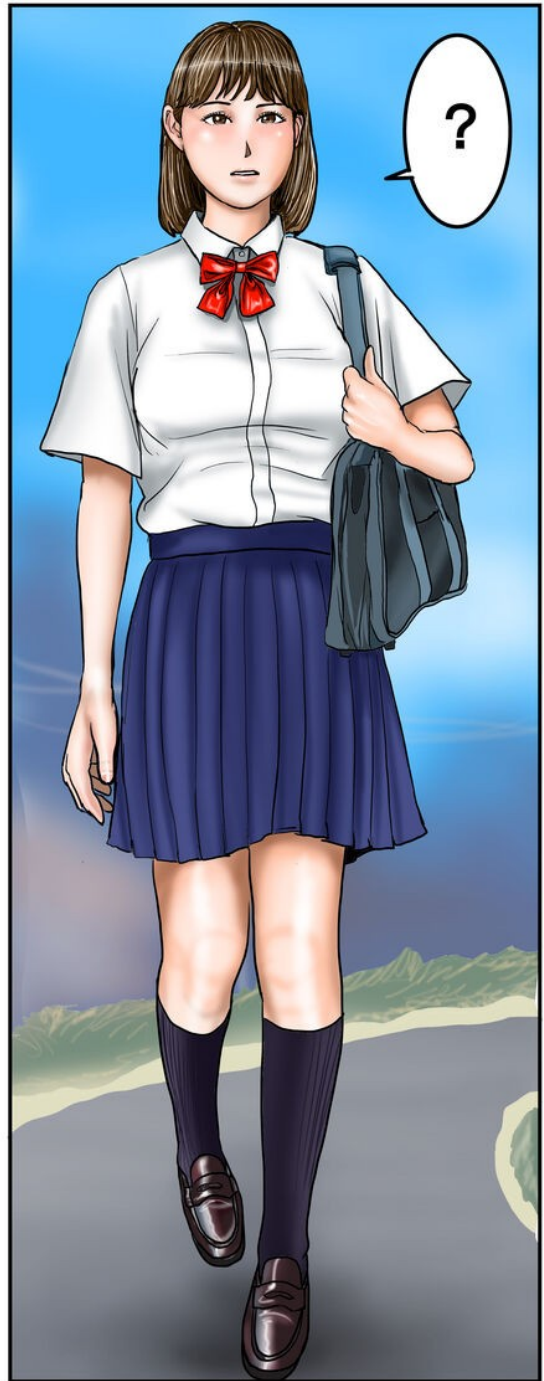


私の事を
乱暴に犯して
くれる男の子
を...

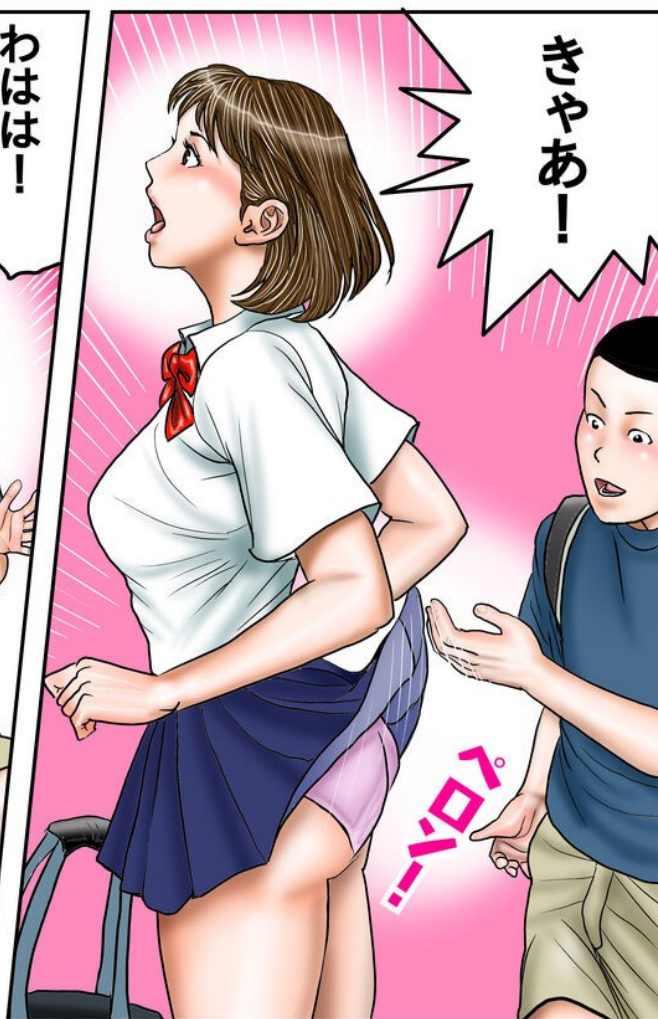
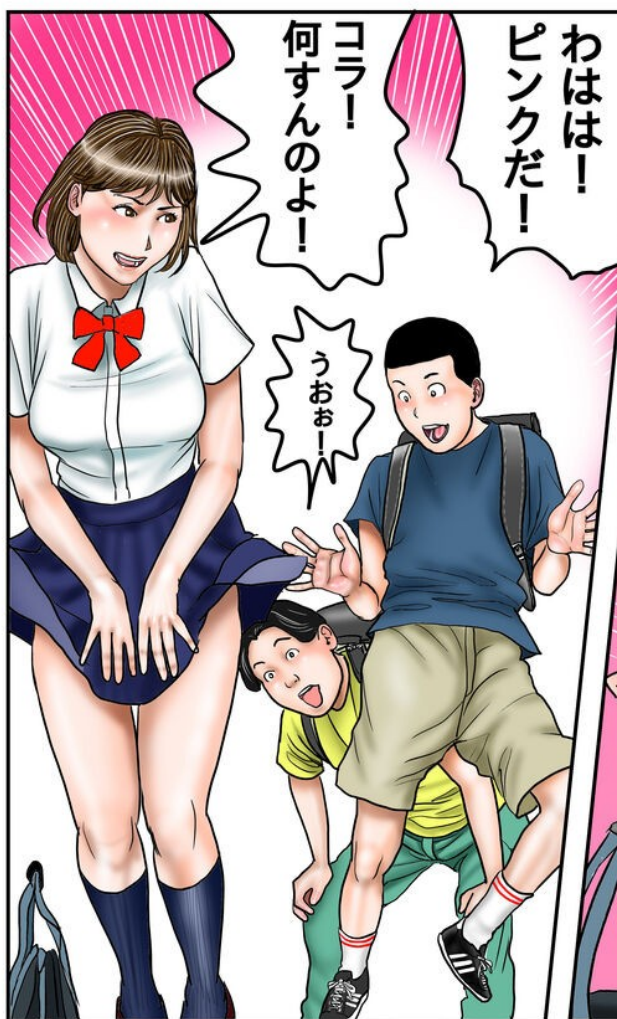
ずっと
探していた

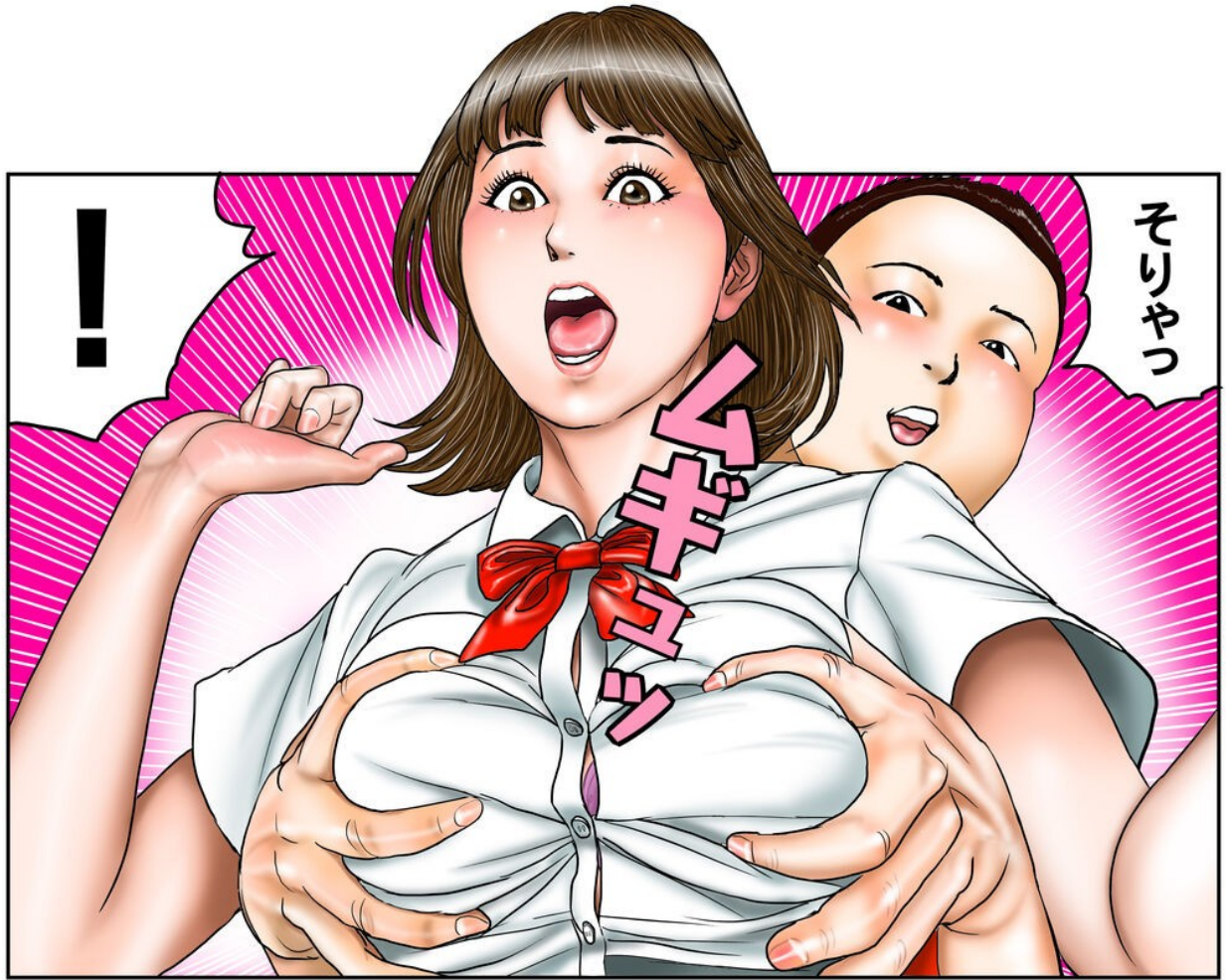


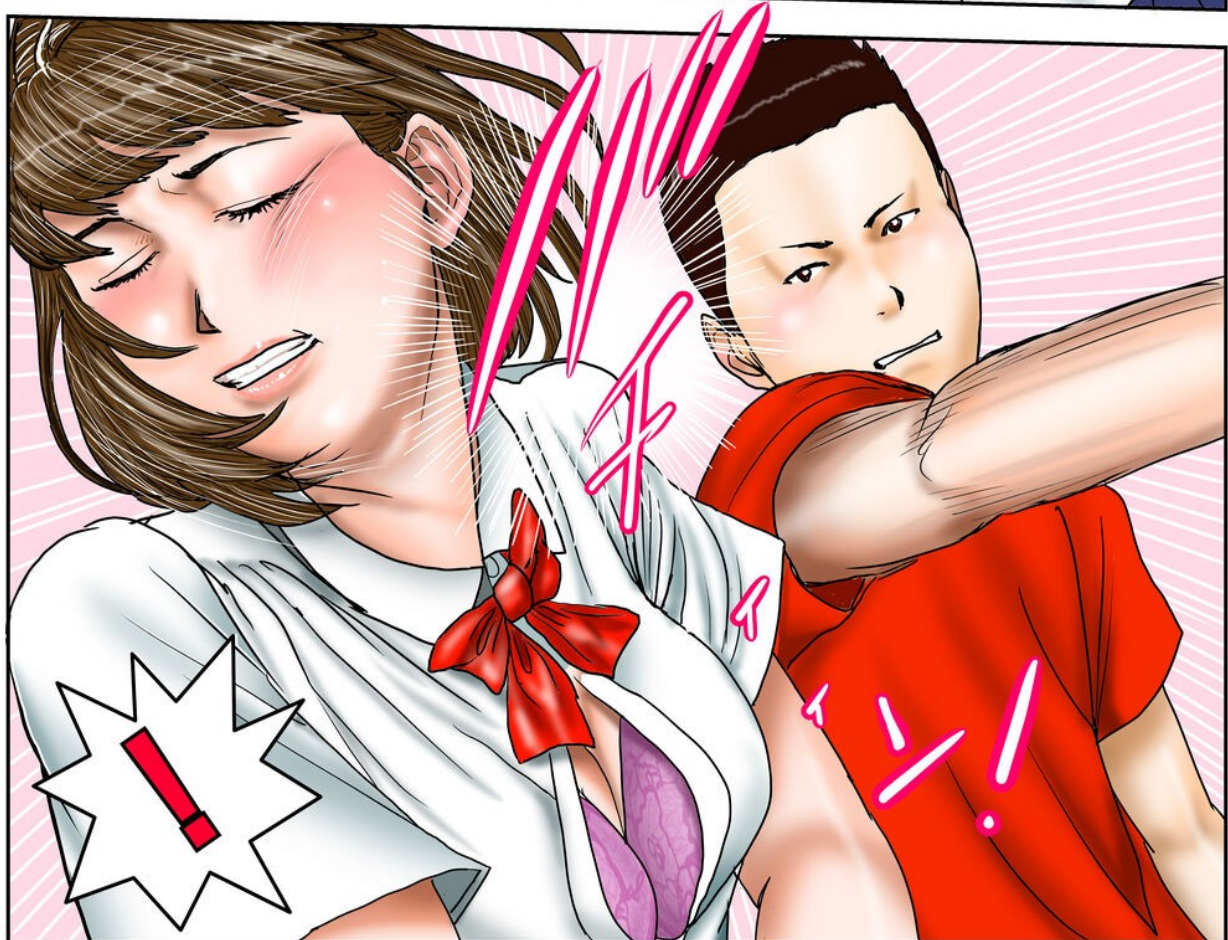
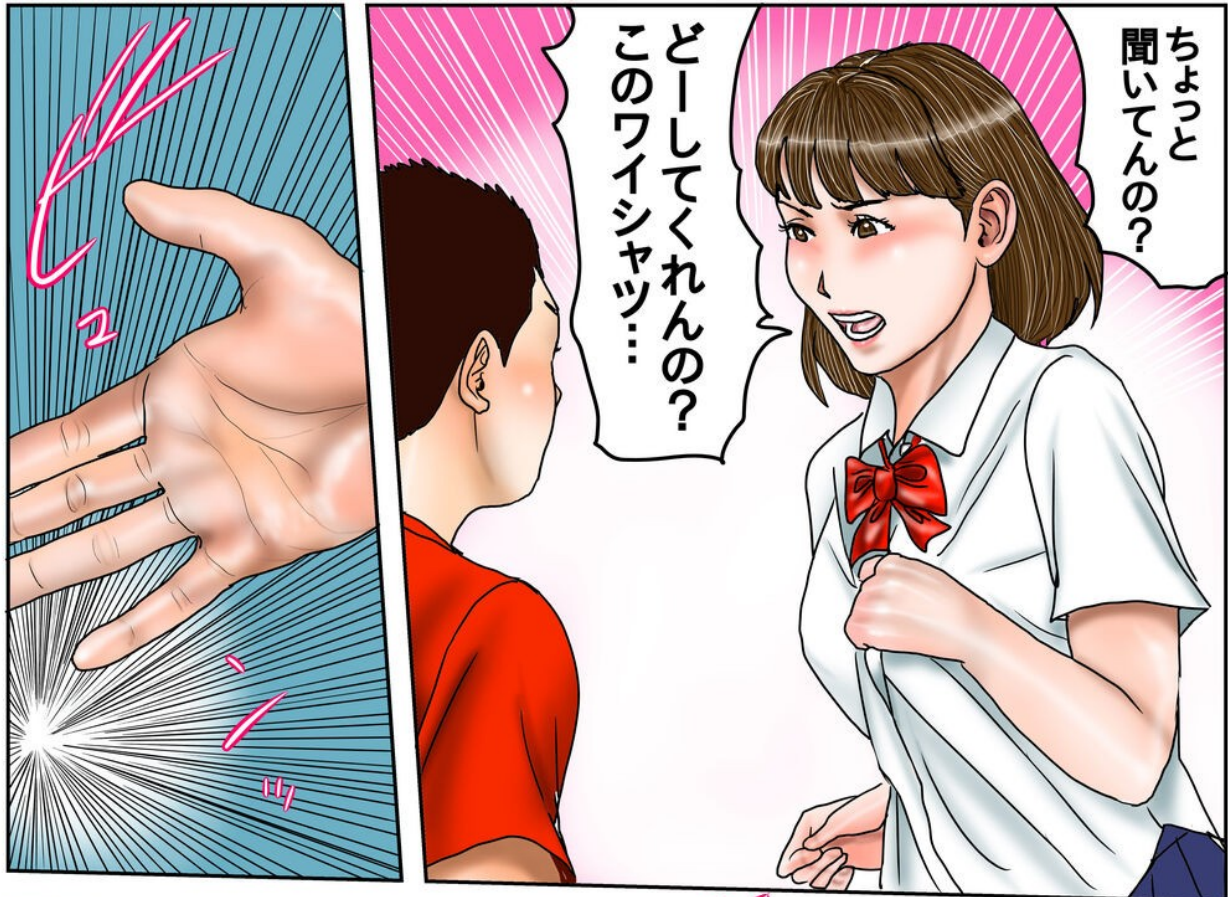
その性癖に私が
目覚めたのは
高校生の時の
ある事件が
きっかけだった

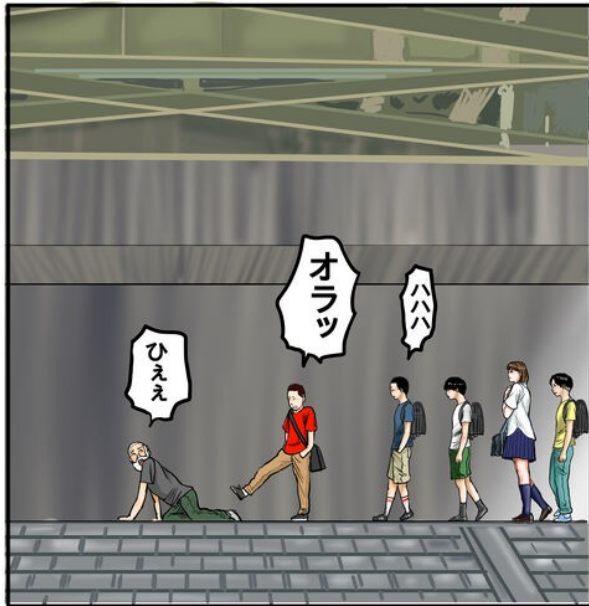


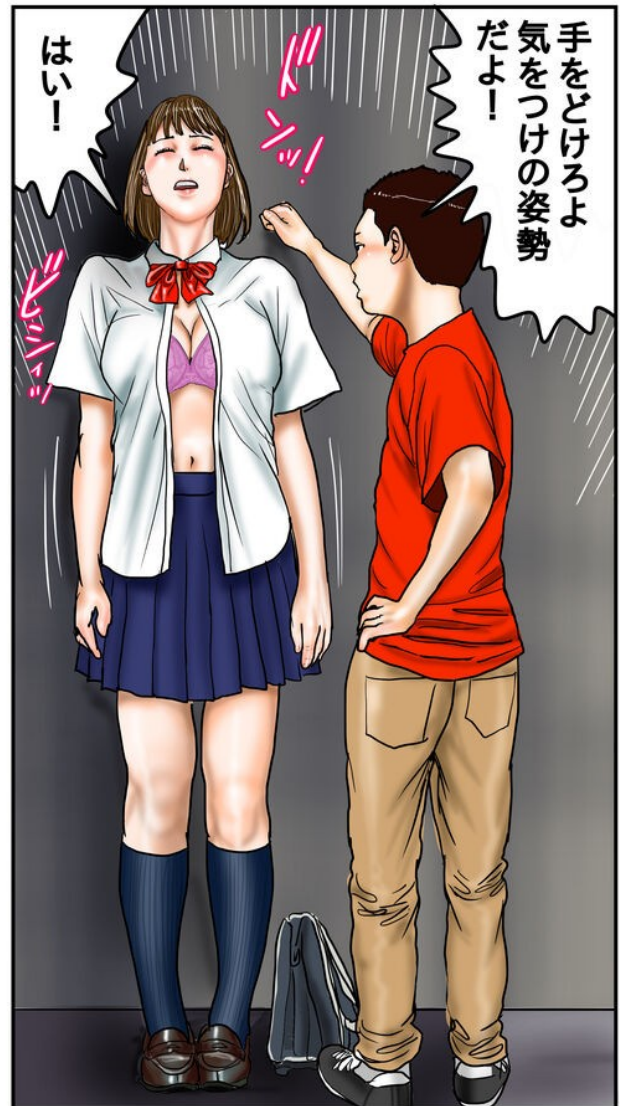
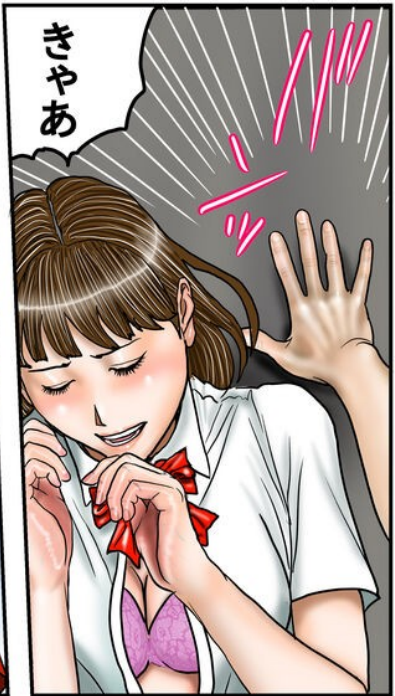




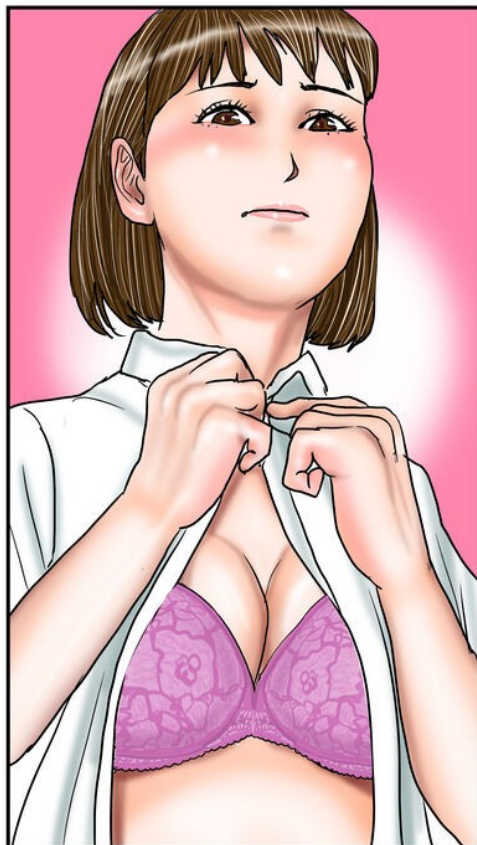
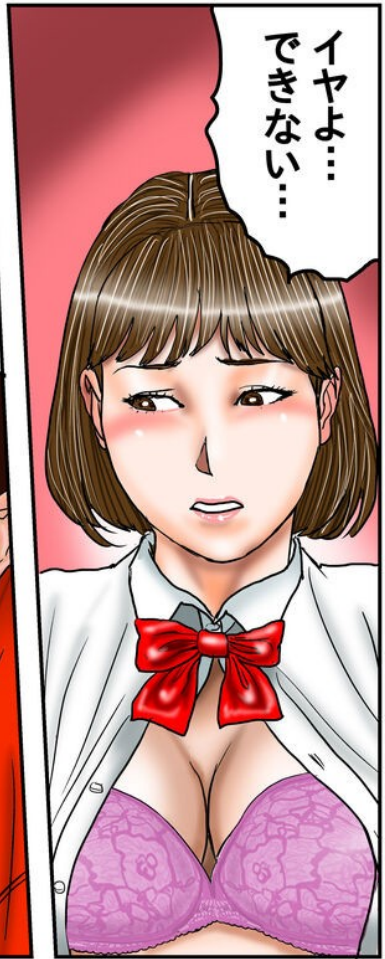


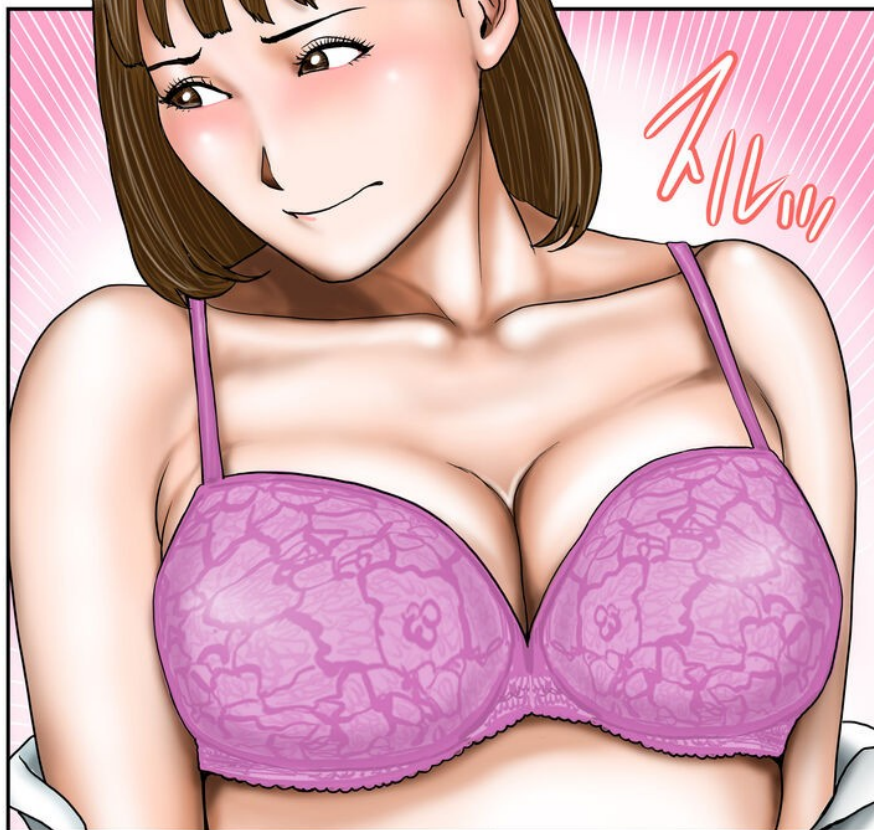
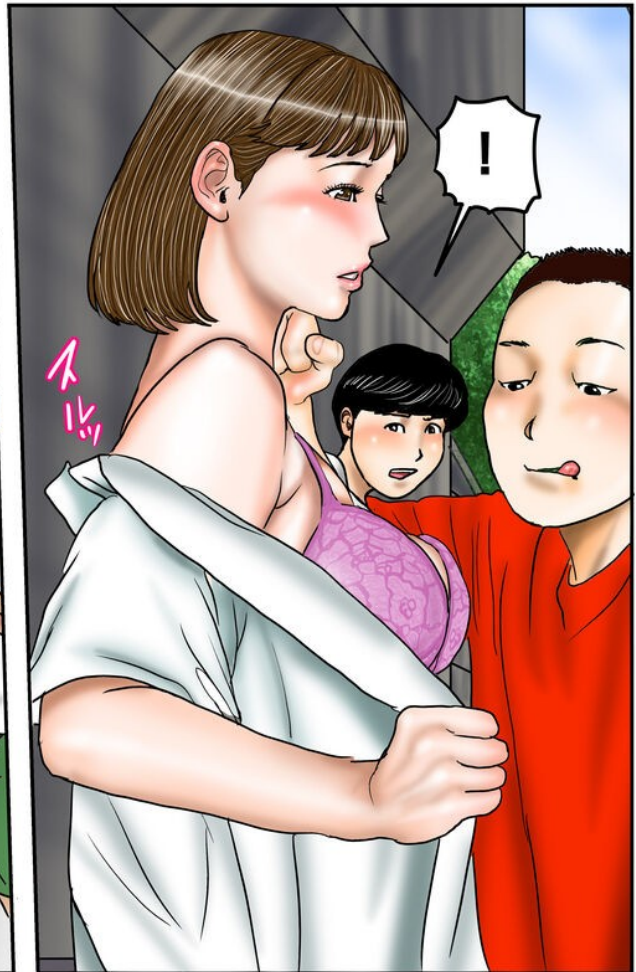


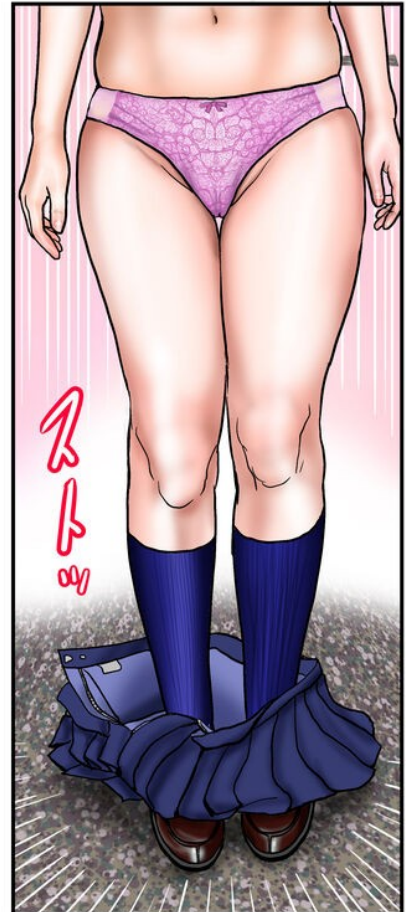
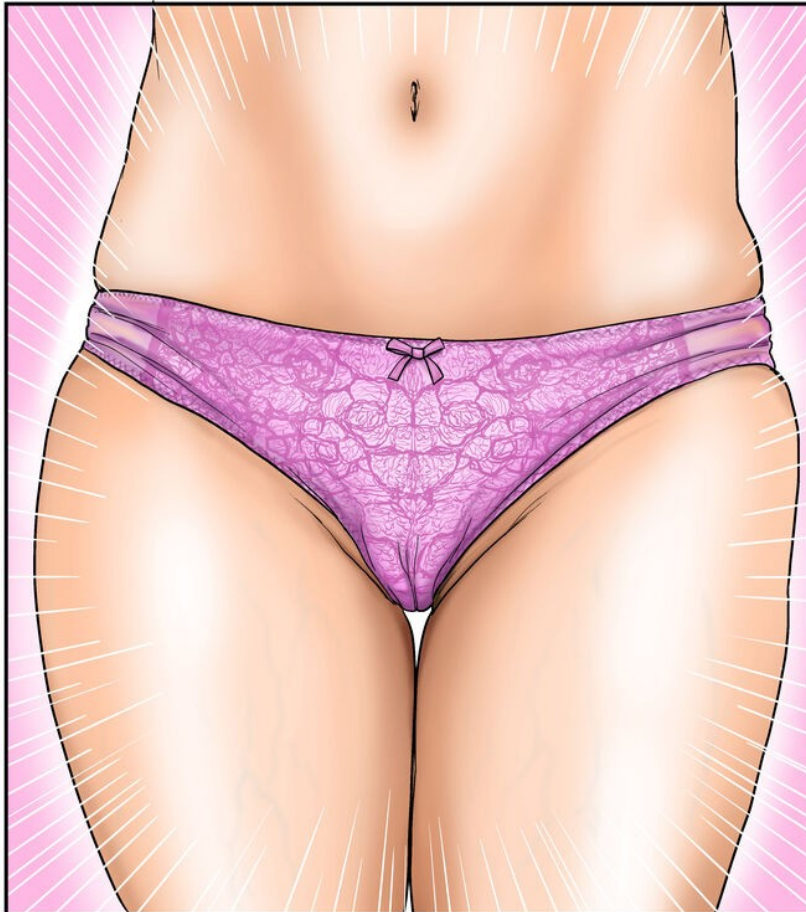


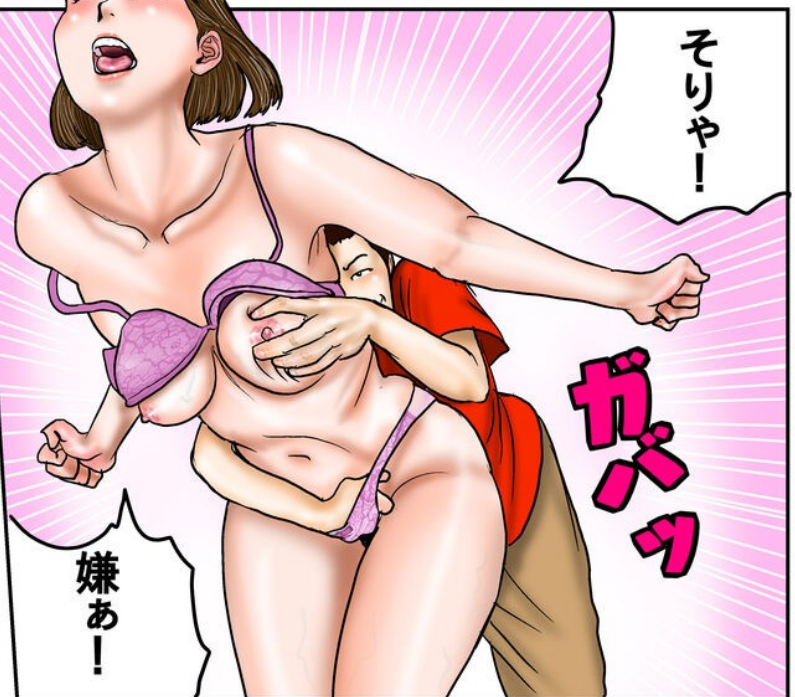
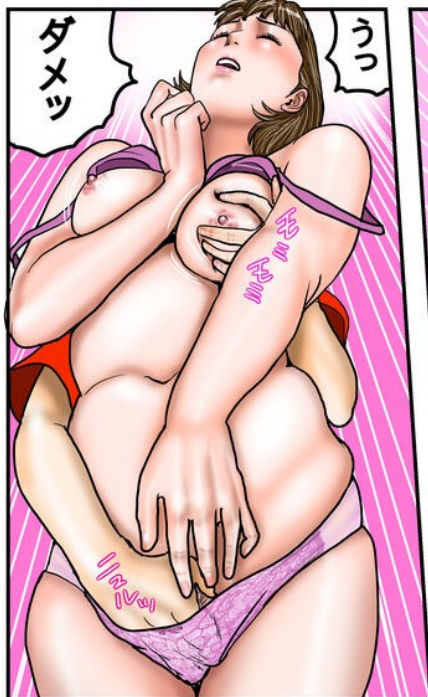
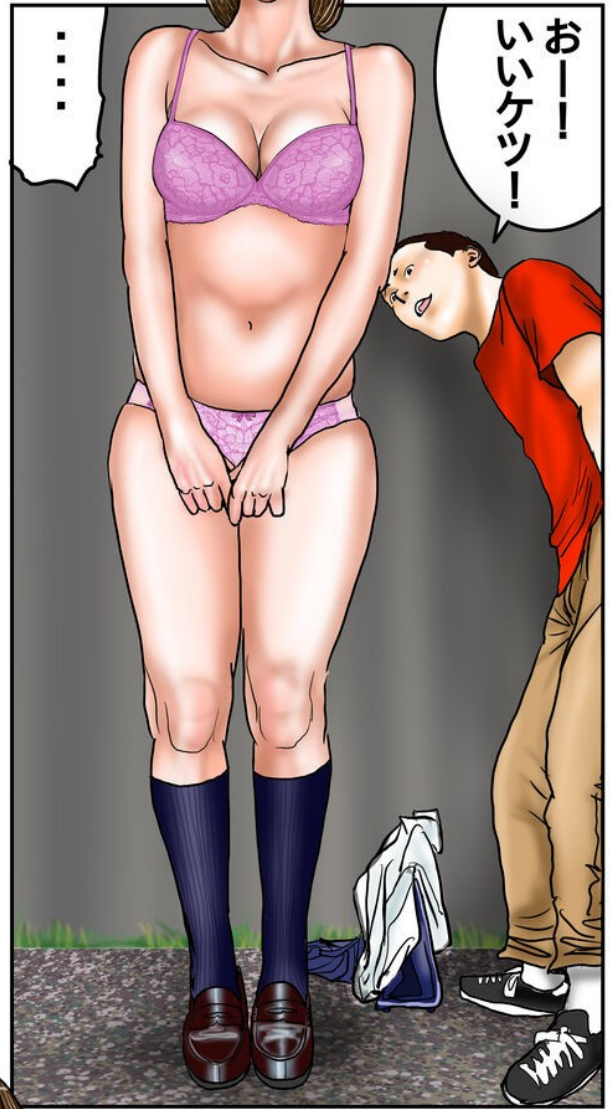


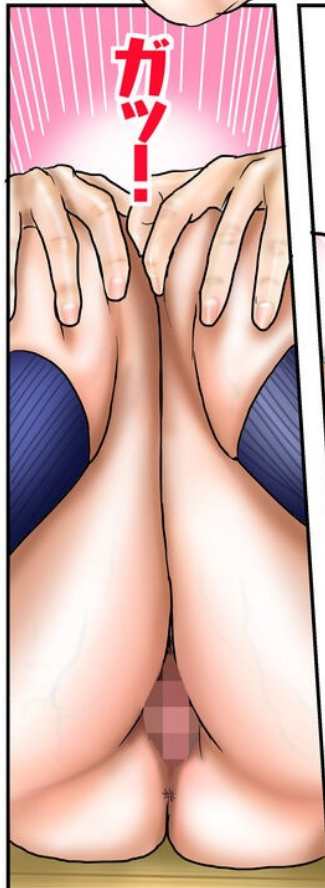














その時感じた
恥ずかしさと
興奮を今でも
忘れられない



私の
剥き出しの
性器に浴びせ
られた

少年達の
好奇の眼差し



弟ですら
オスの顔で
私の性器を
見ていた事を



そして私は
見逃さなかった



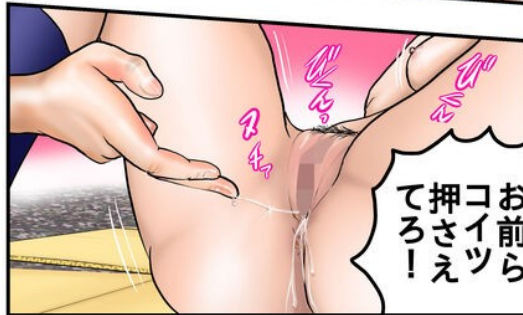
人として
大事なものを
失ったような
絶望感と…

ああ…



身体を
弄ばれて
楽しまれ…

ああ！
ダメエ！



お前ら
コイツ
て押し
ろえ！



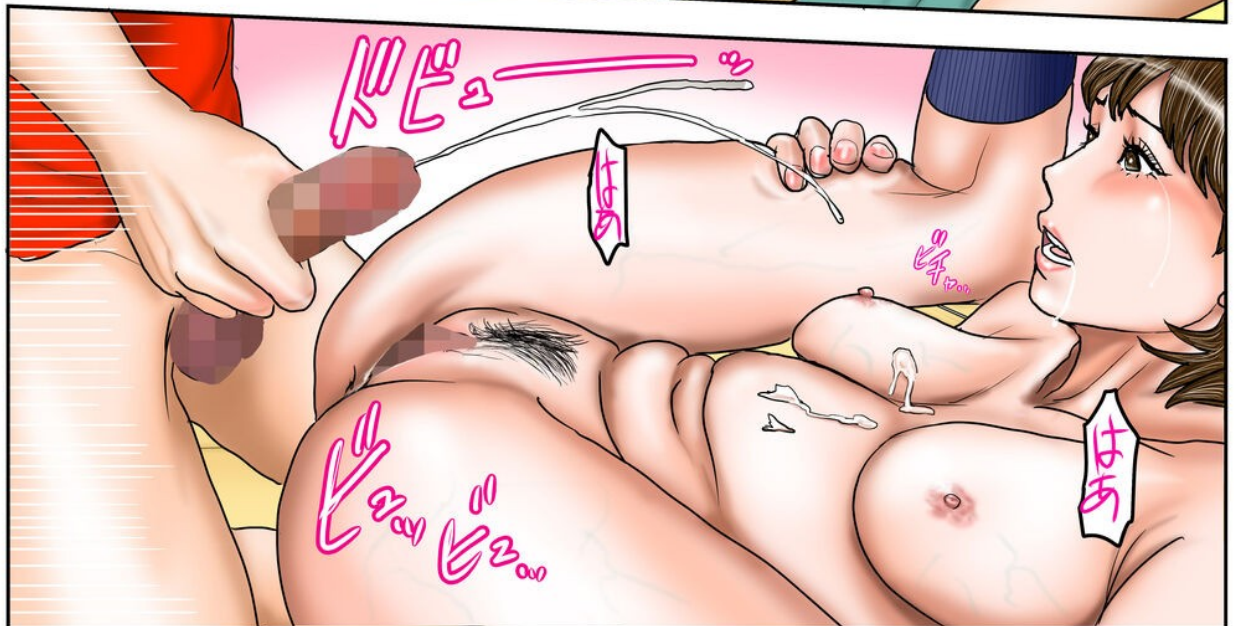
この日
生まれて初めて
絶頂を経験した

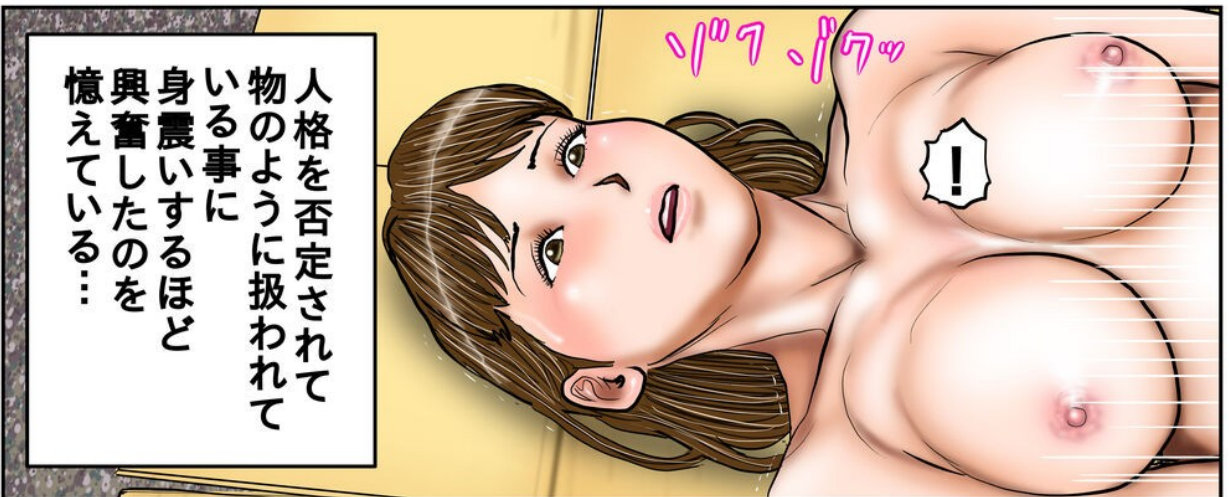


全てから解放
されたような
快感を同時に
感じながら…

イヤア

ちゃんと
押さえとけ！







うっ...うっ
シクシク
...

はあ

はあ

はあ



誰にも言う
なよ!

言いつけたら
弟がどうなっても
しらねえからな!

はあ

はあ



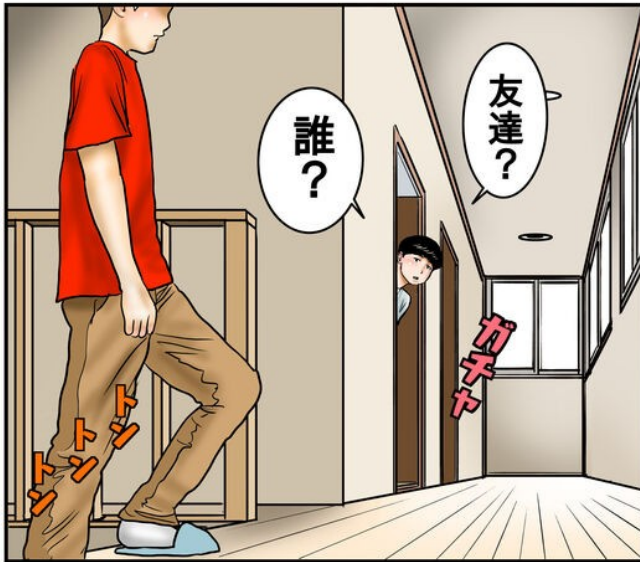
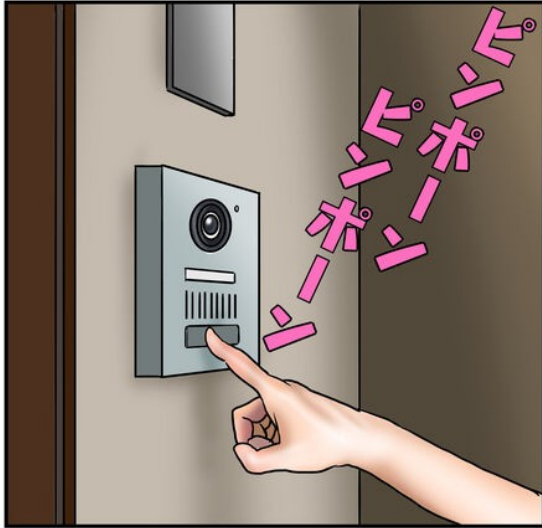
わかったか?

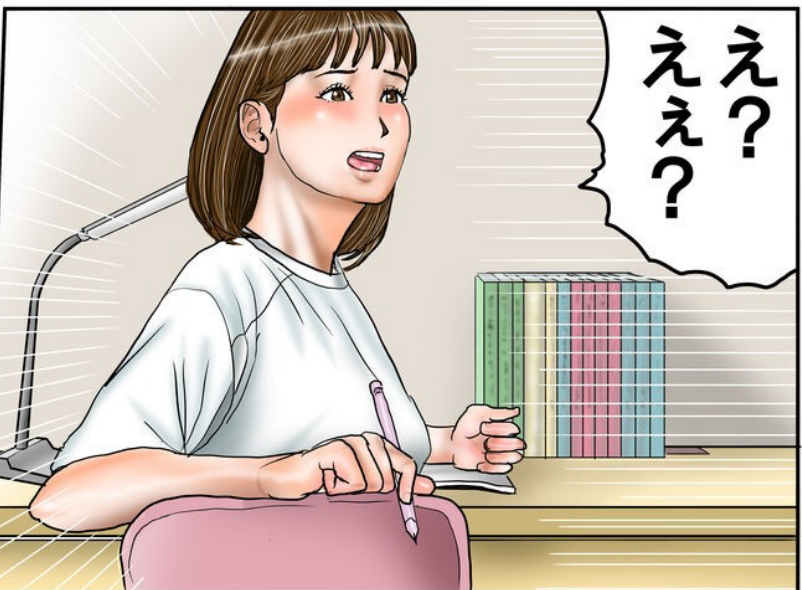
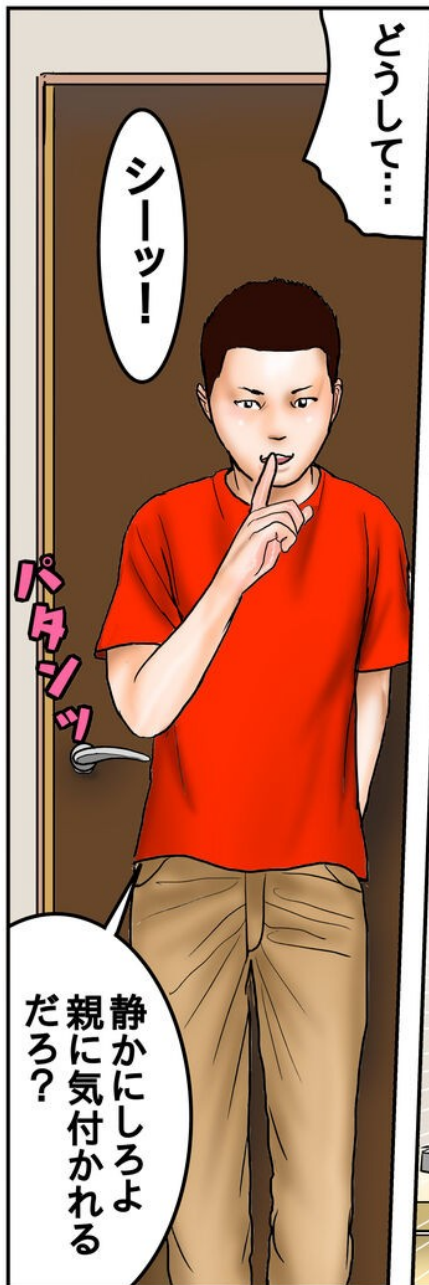
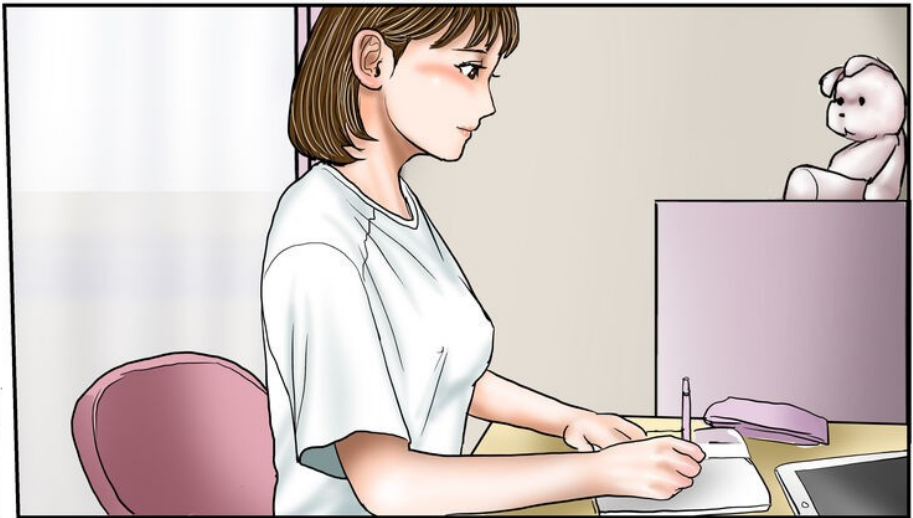
...はい

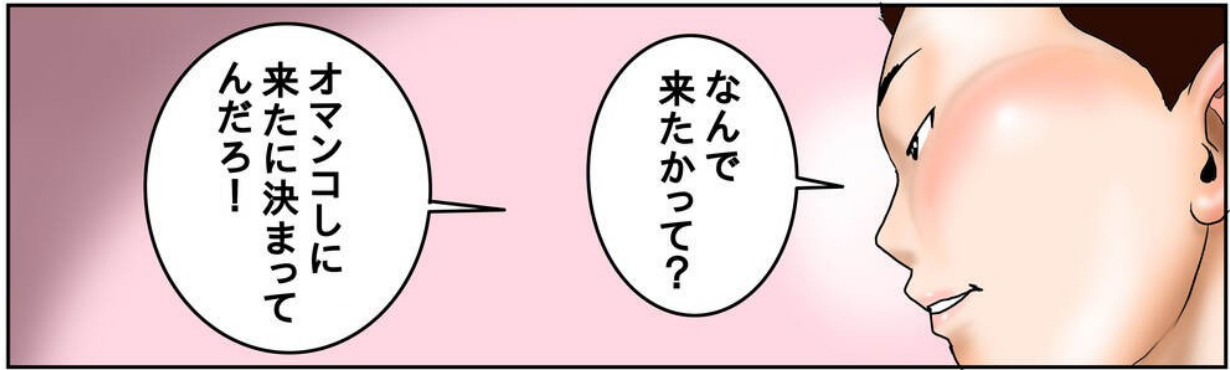
はあ

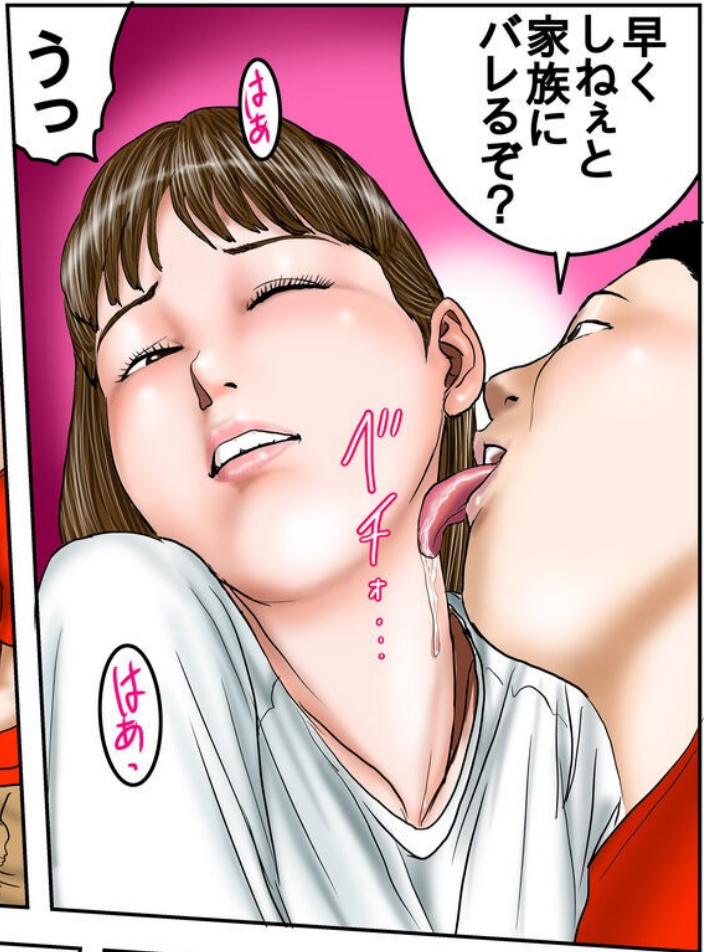
はあ

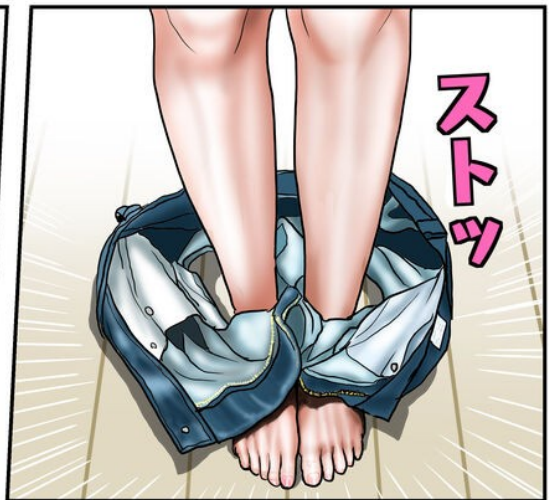
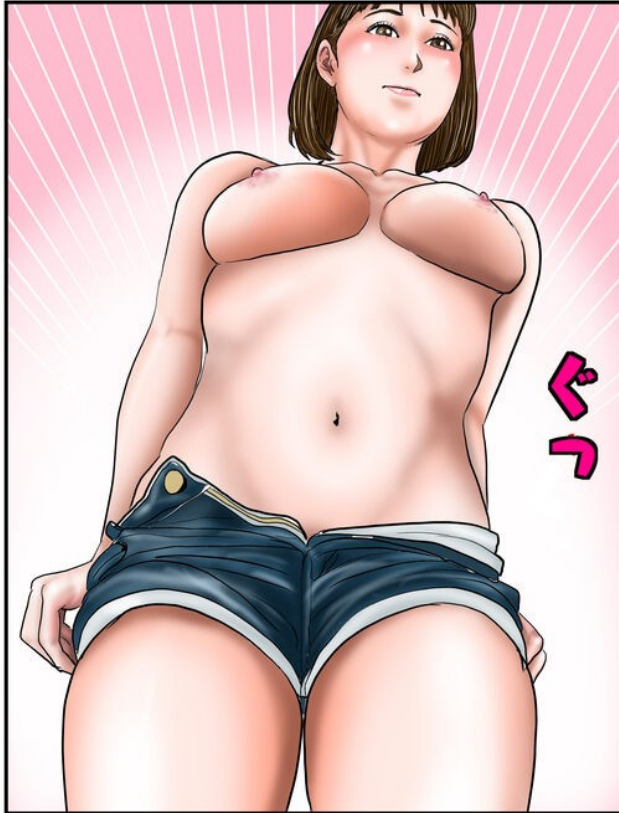
それは始まりに
すぎなかつた...

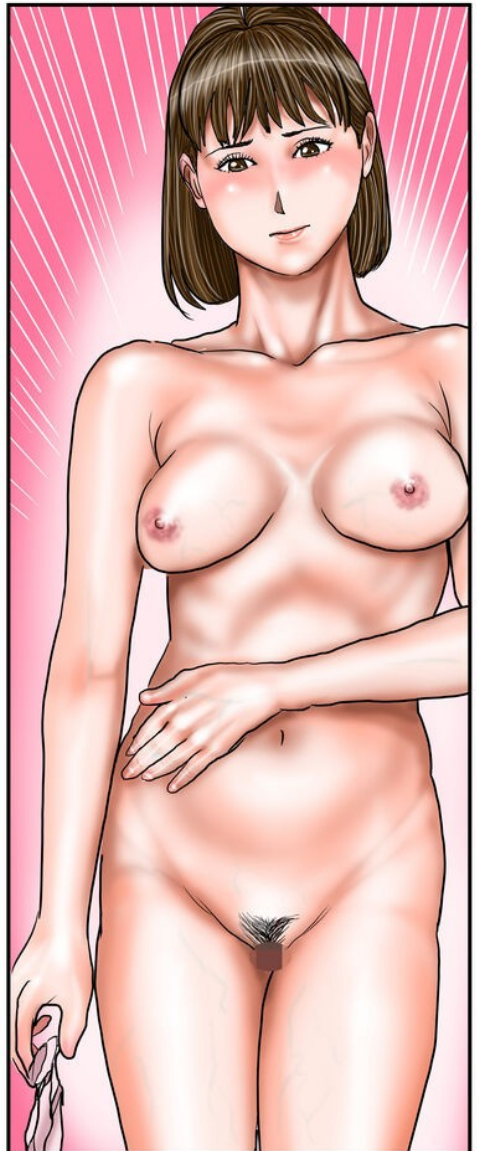
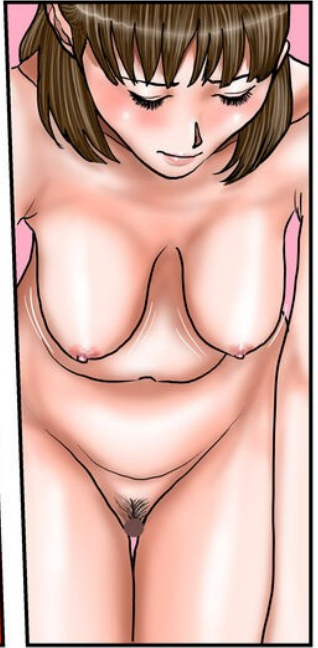
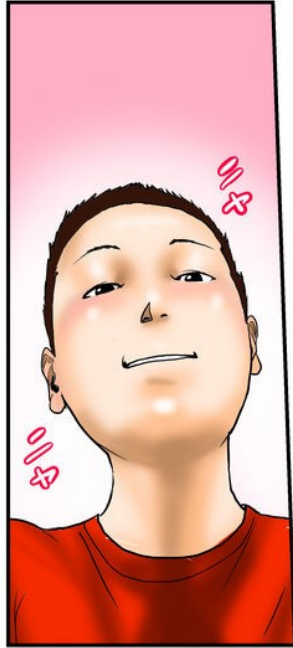


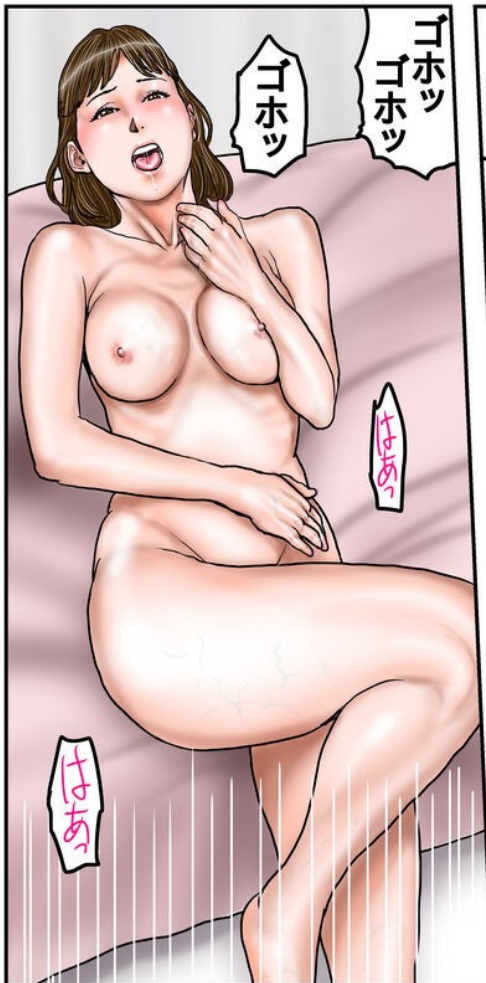


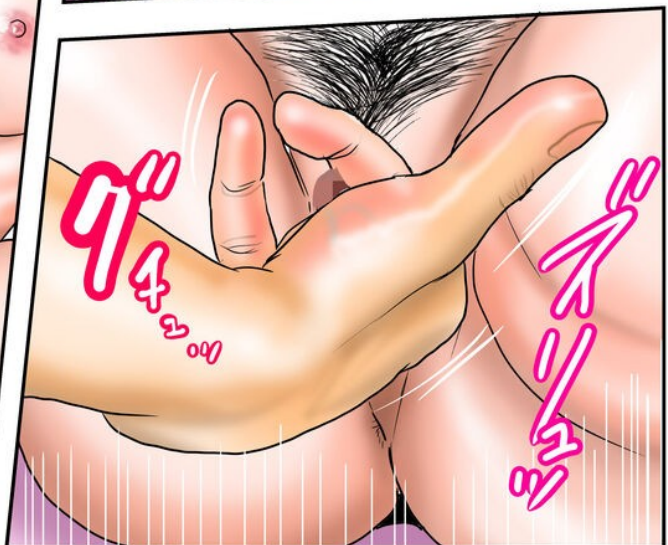
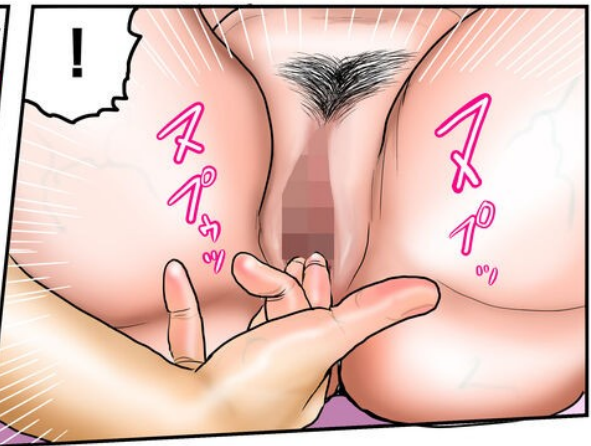
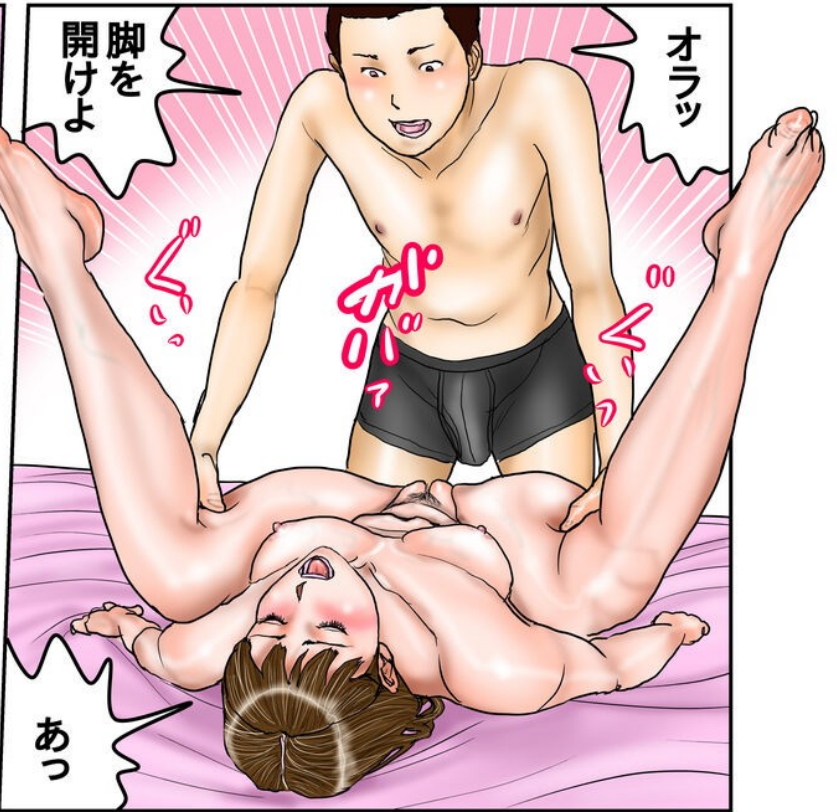


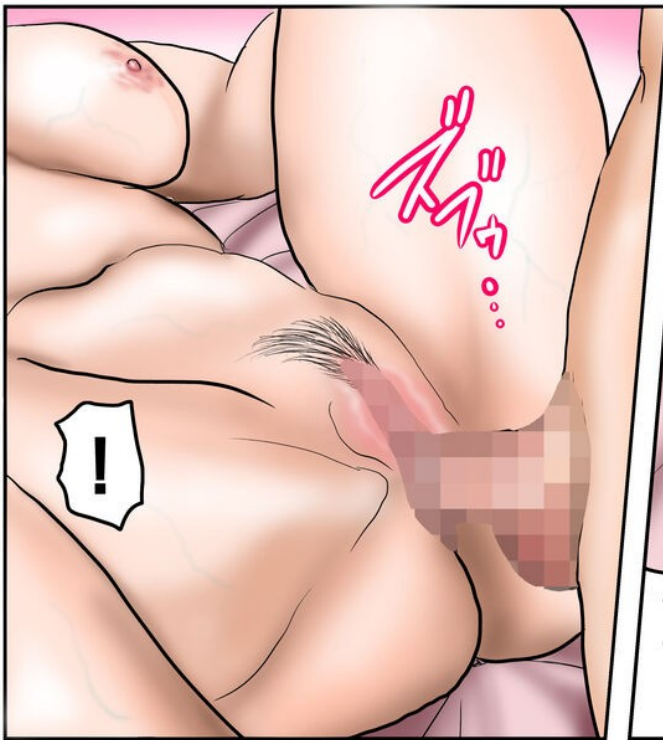
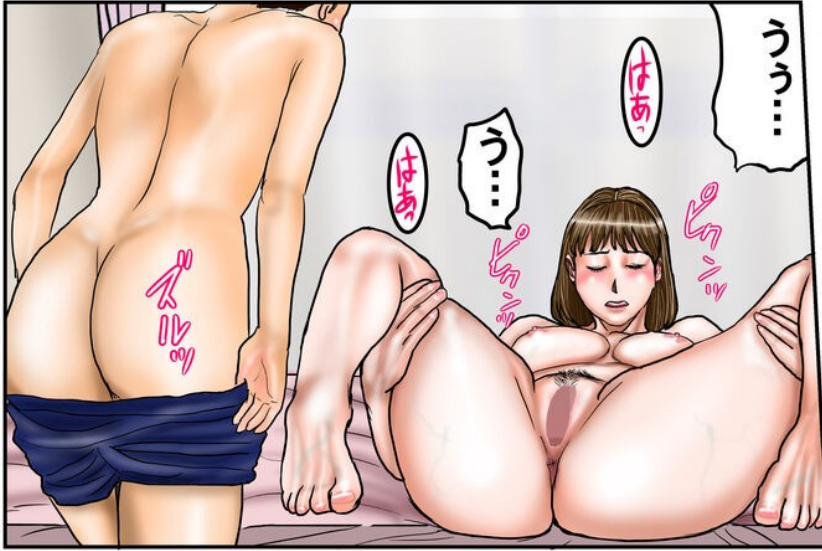


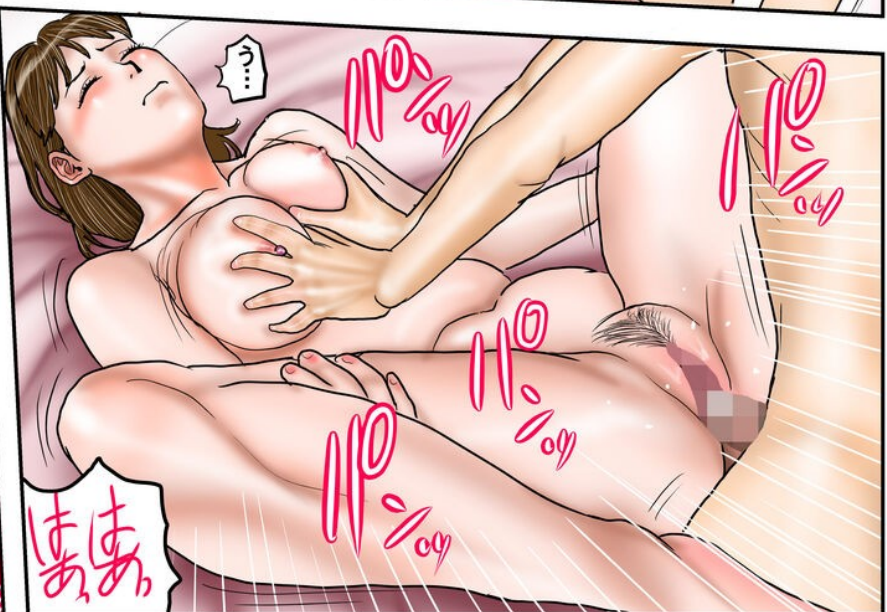
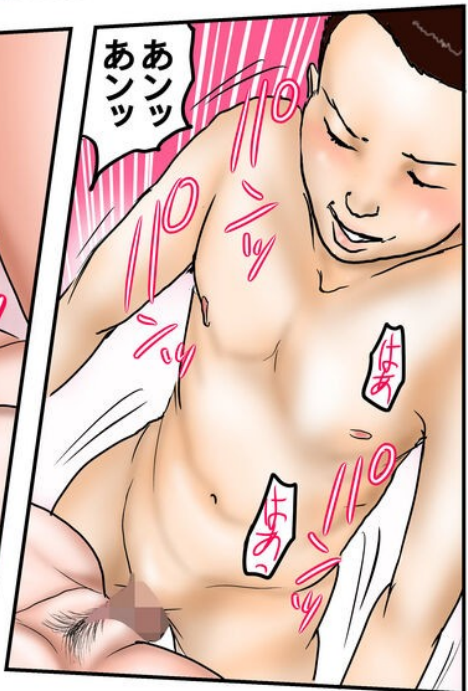
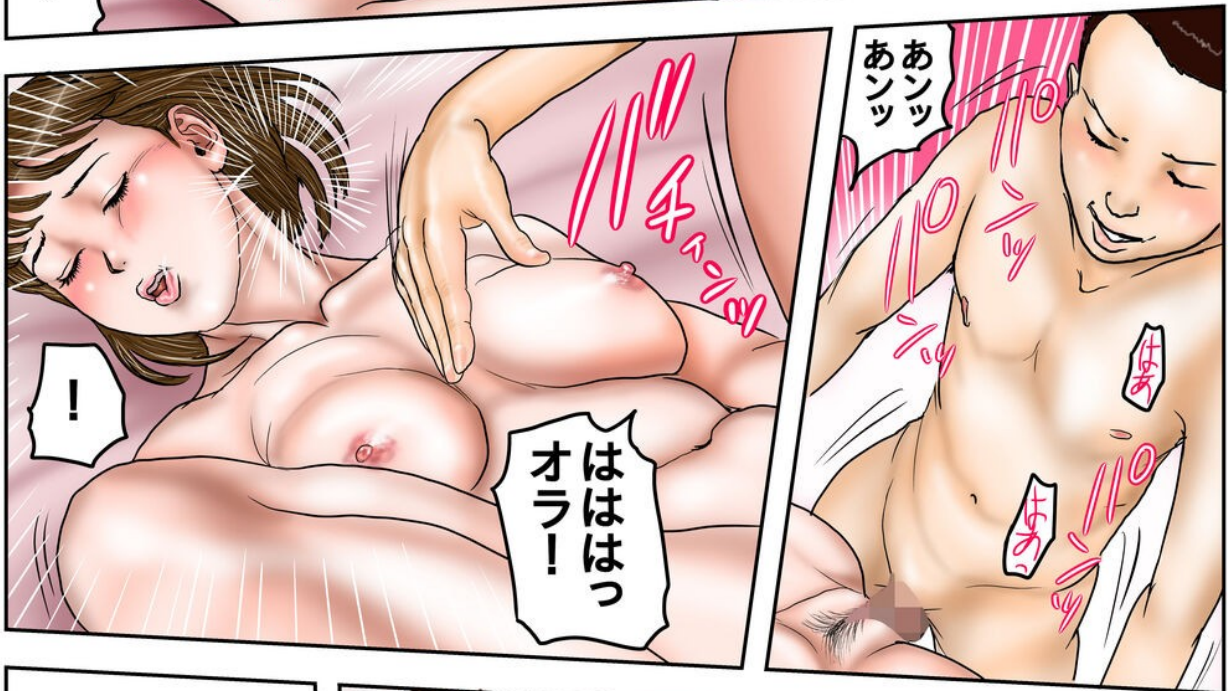
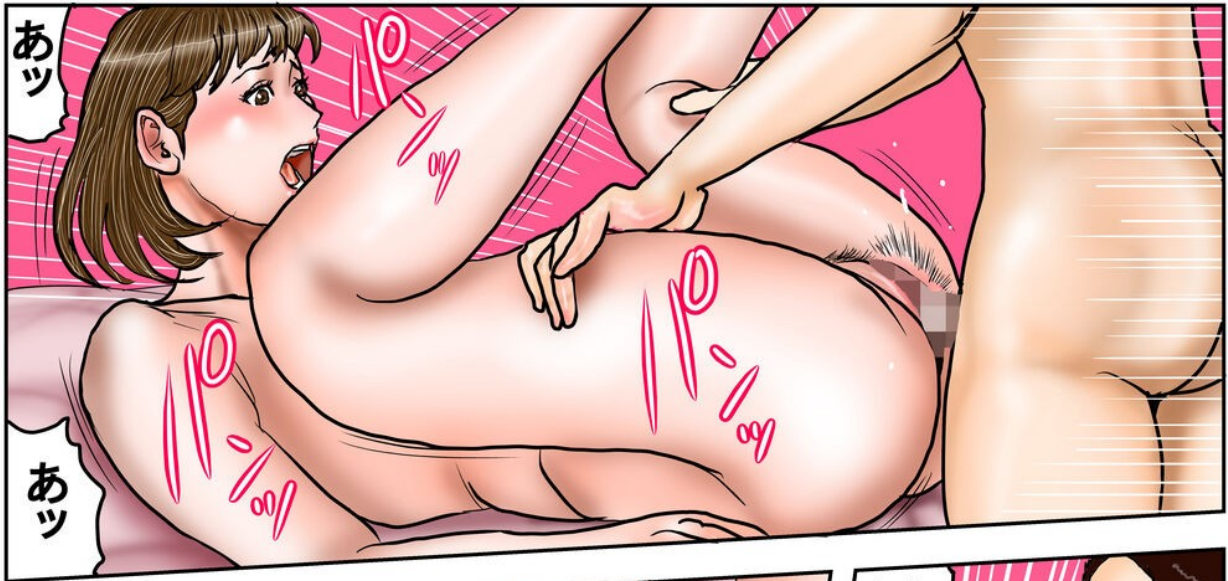


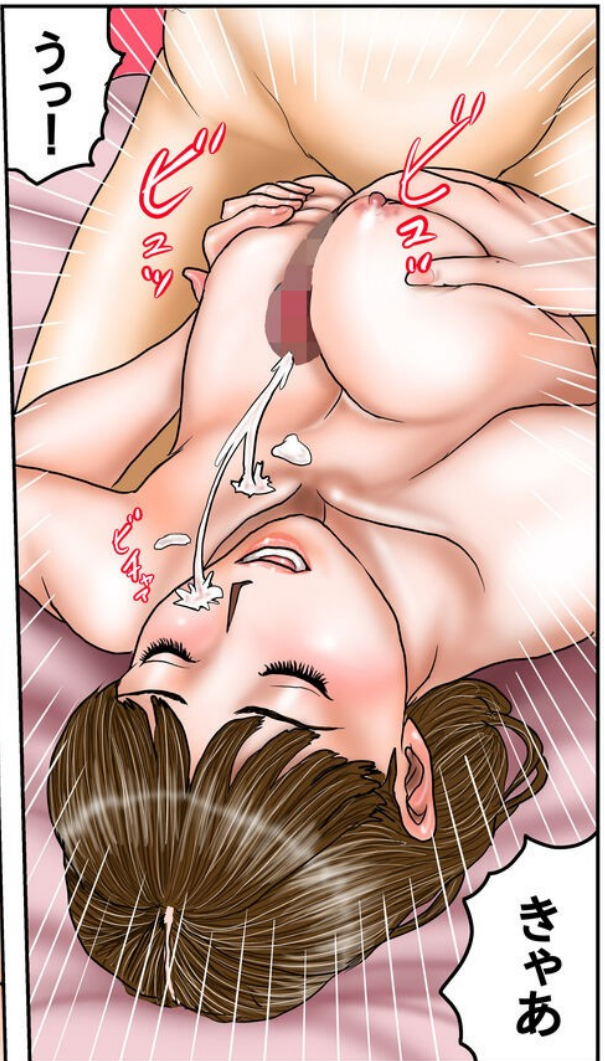


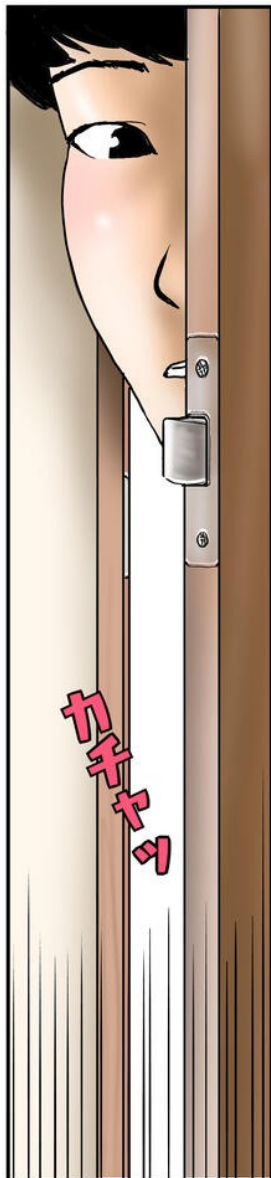
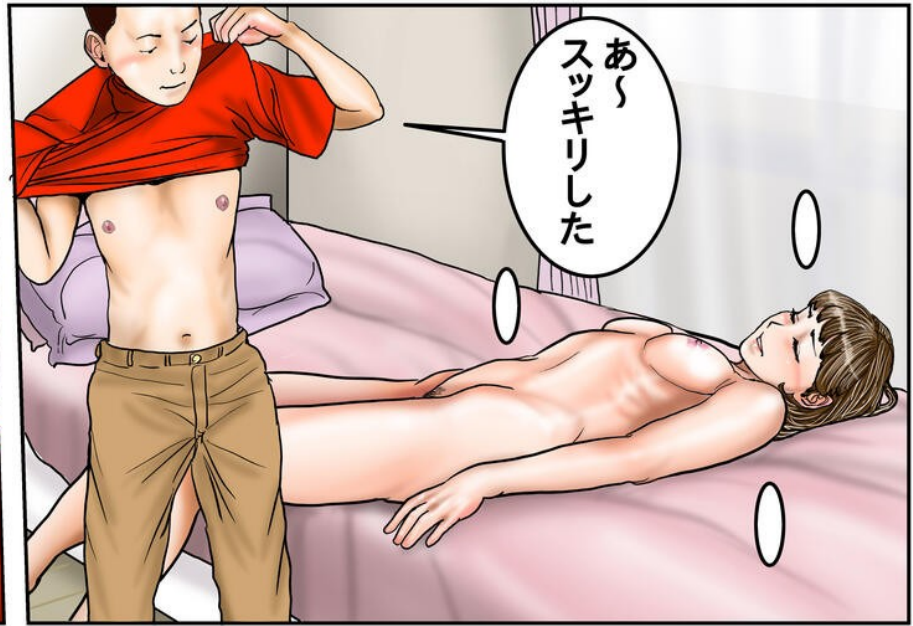


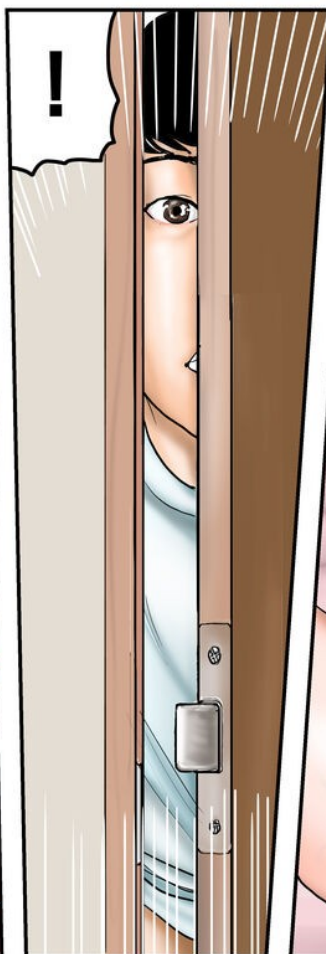
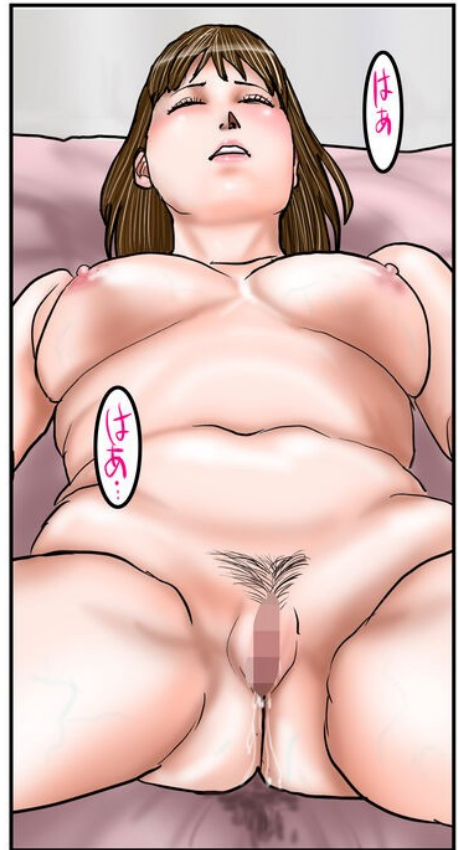
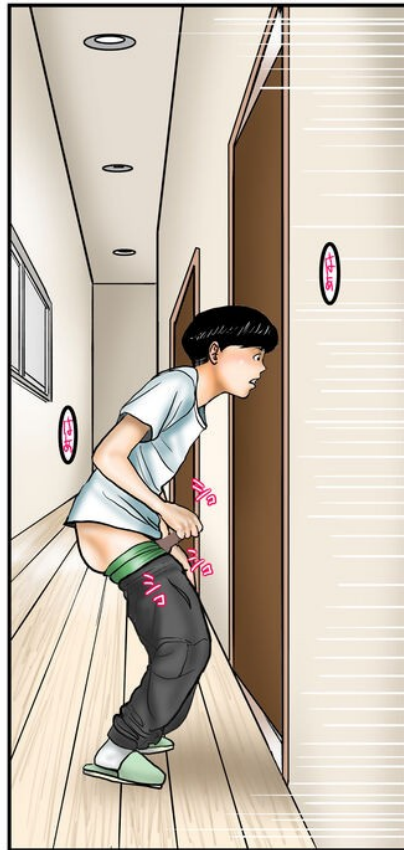


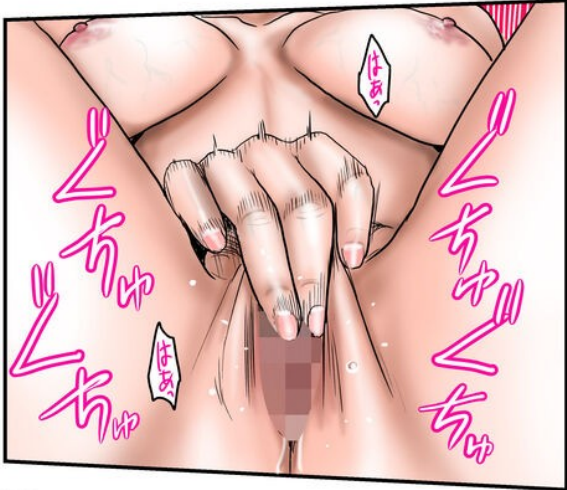
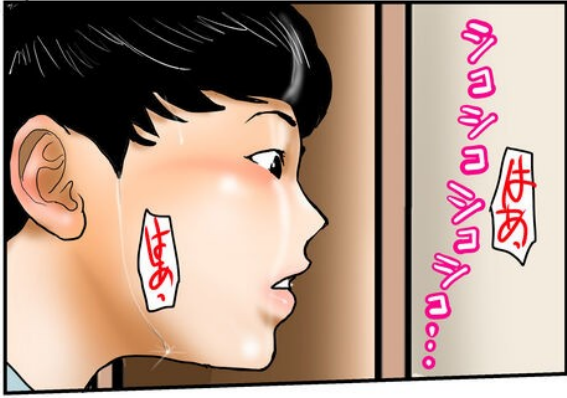


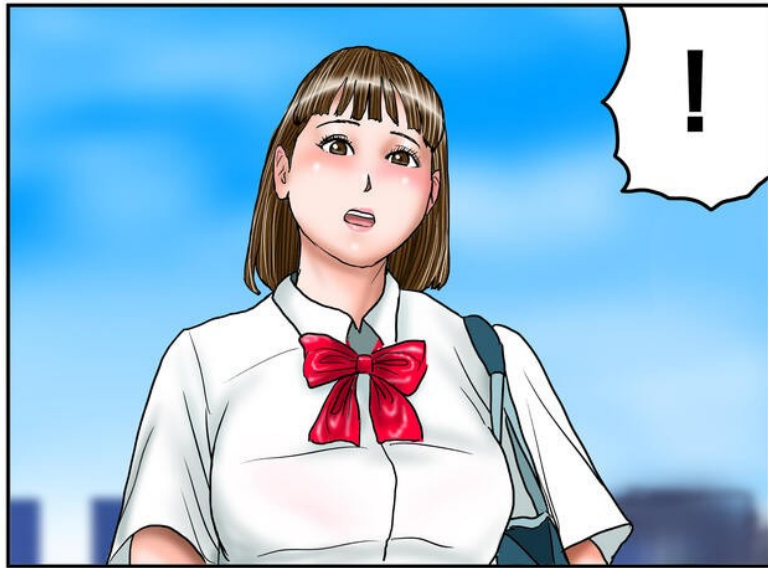












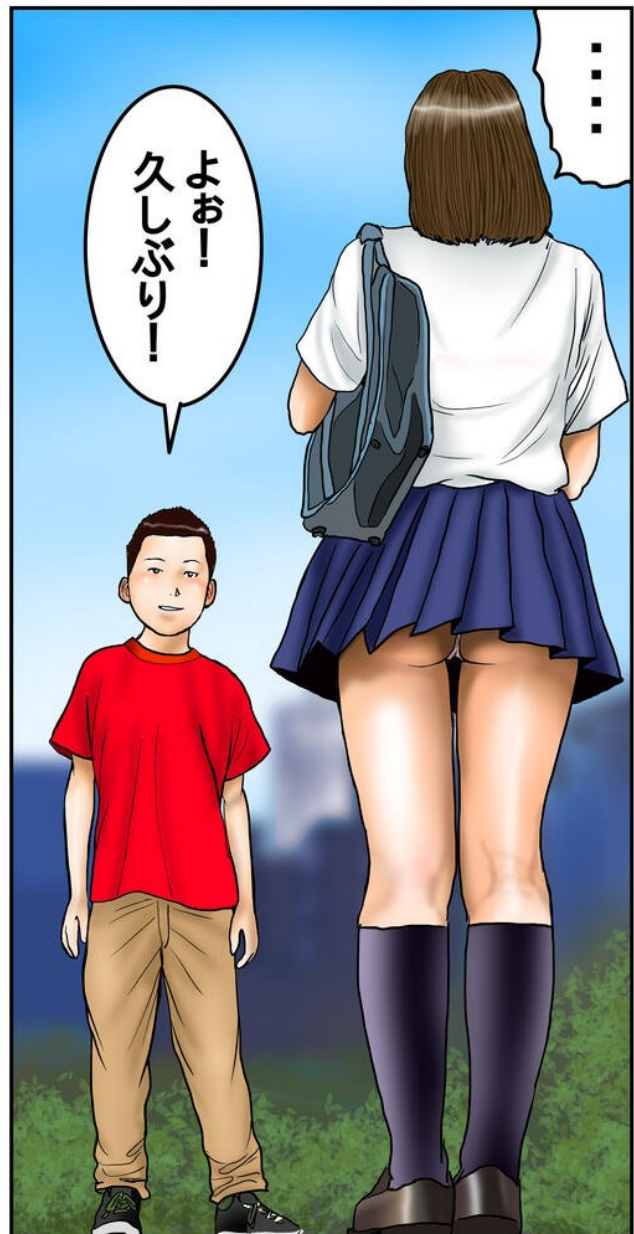
それからも
あの少年は
私の前に
度々現れた…



精子たまって
チンコびんびん
だからさあ

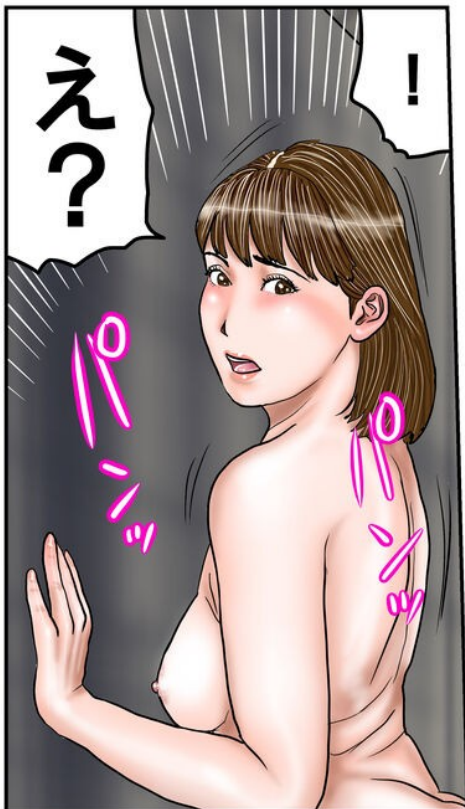
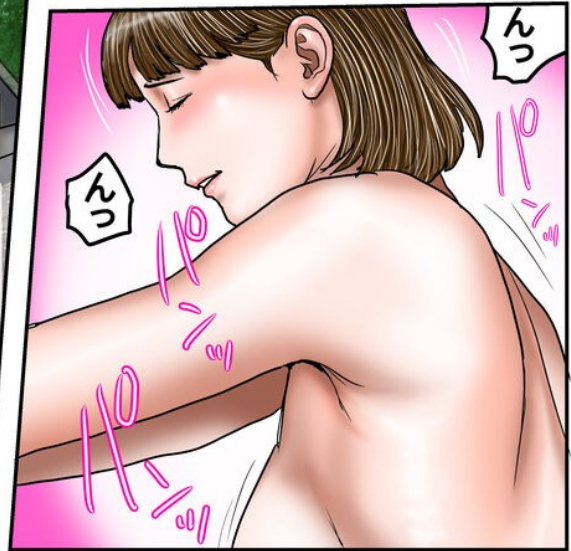
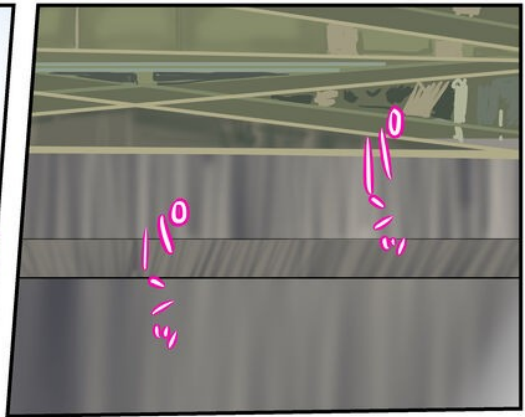
お前のオマンコ
使わせてくれよ！

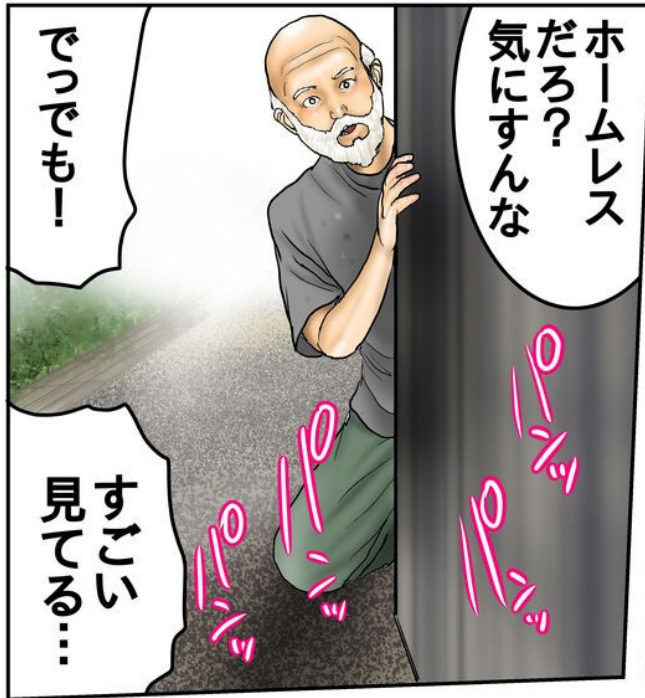
この頃には
次はどんな事を
してくれるねか
期待している
自分がいた…

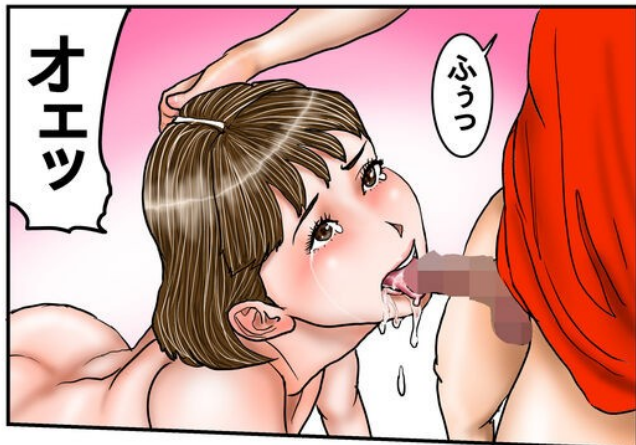


よお！
久しぶり！

…
…
…











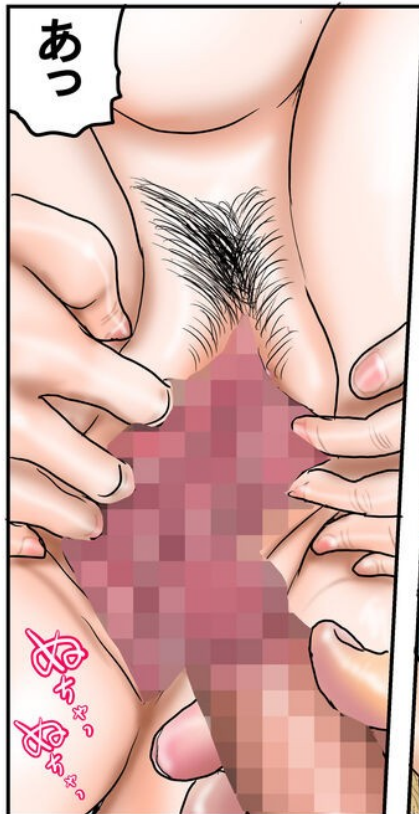
はじめまして
竹内真由と
申します

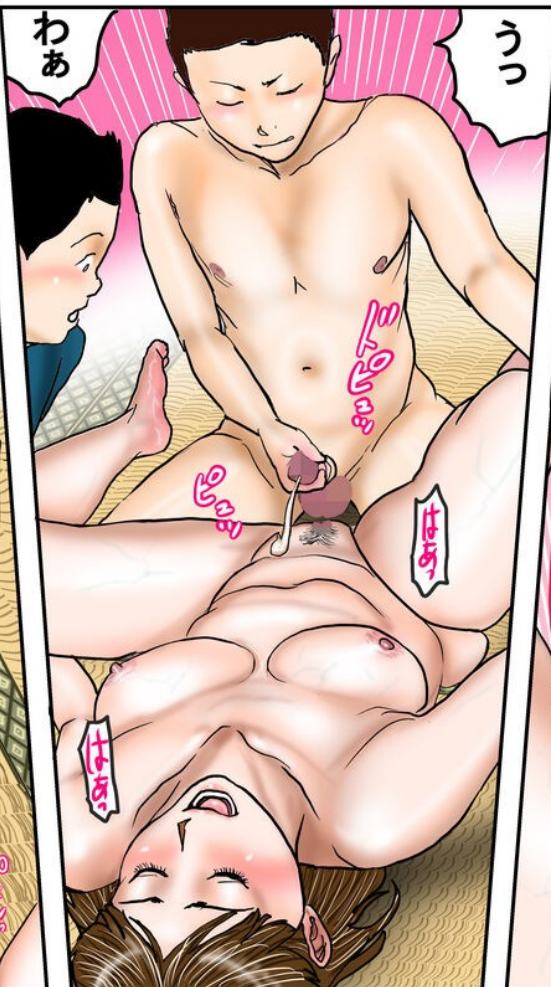
よろしく
お願いします

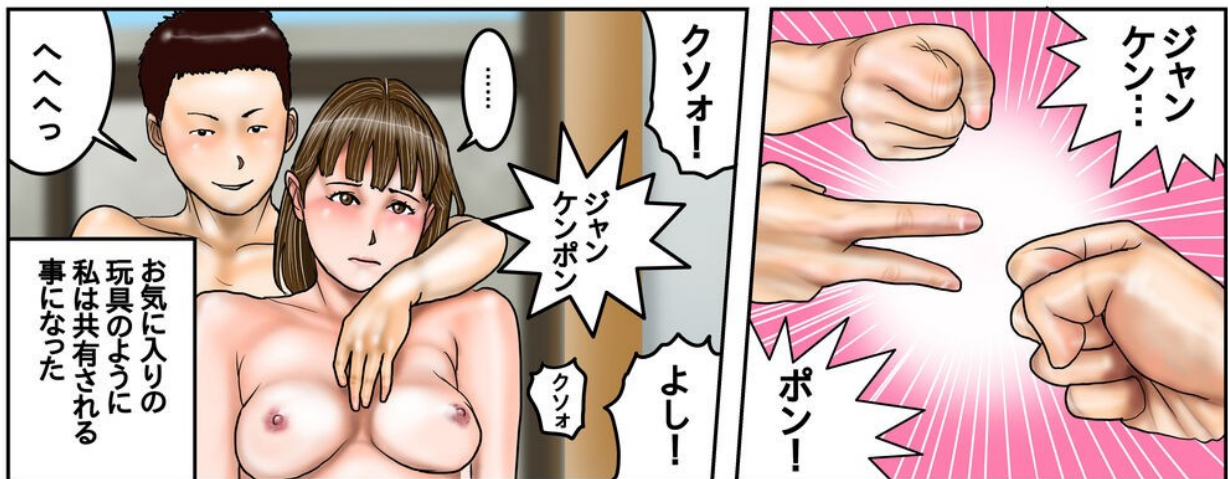
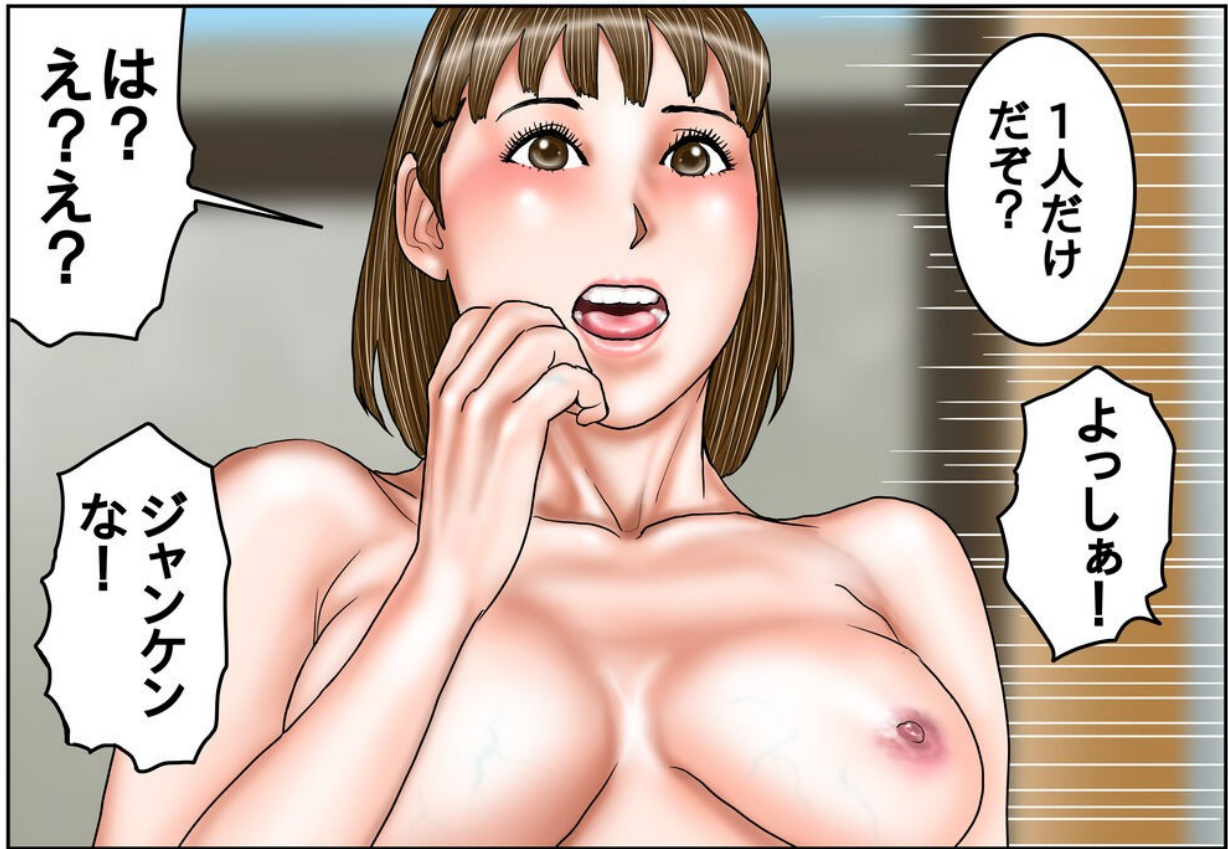
屈辱的な
仕打ちほど
興奮するように
なっていた……

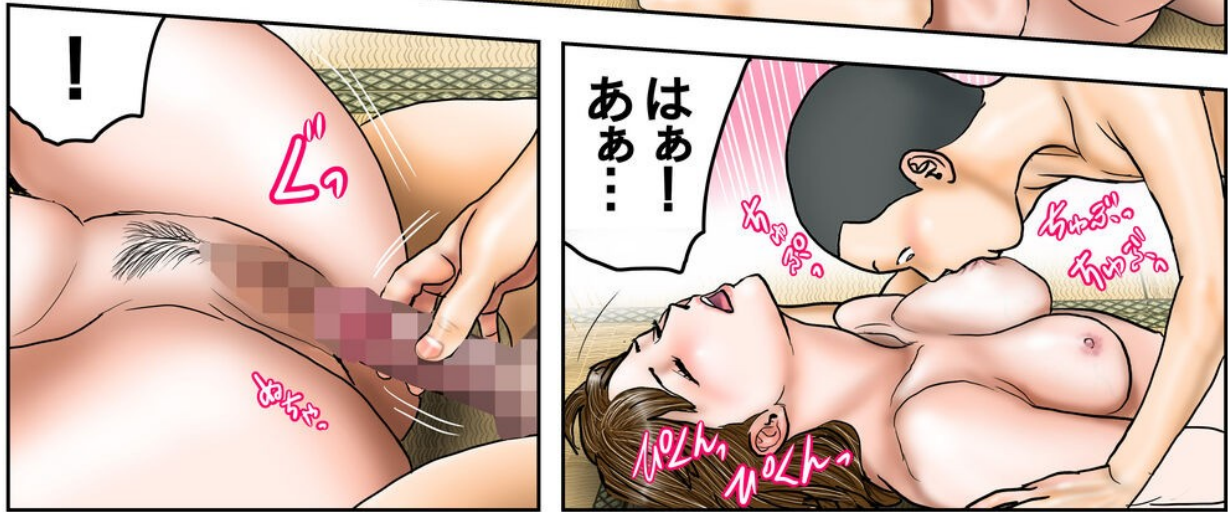
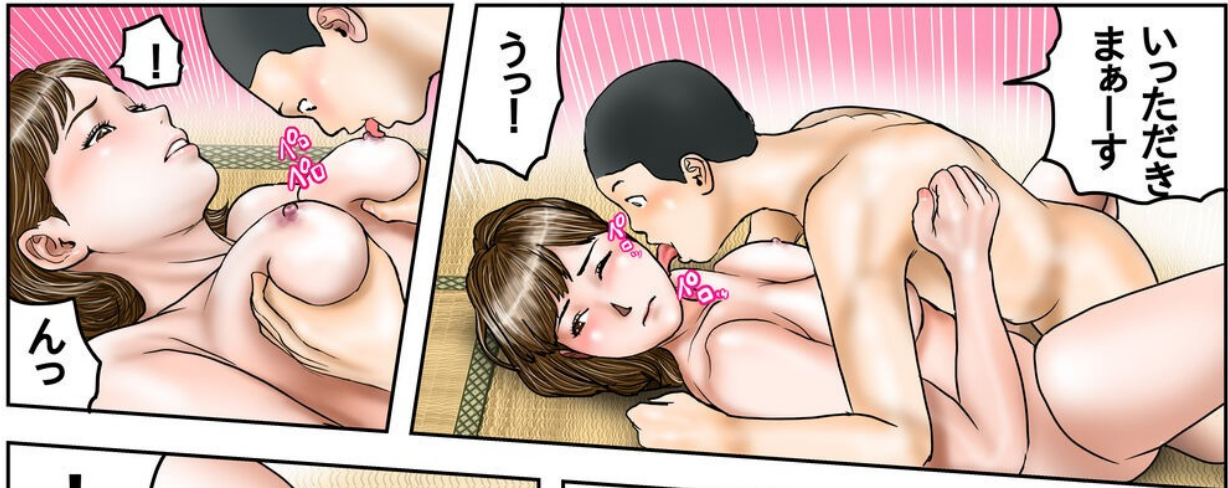


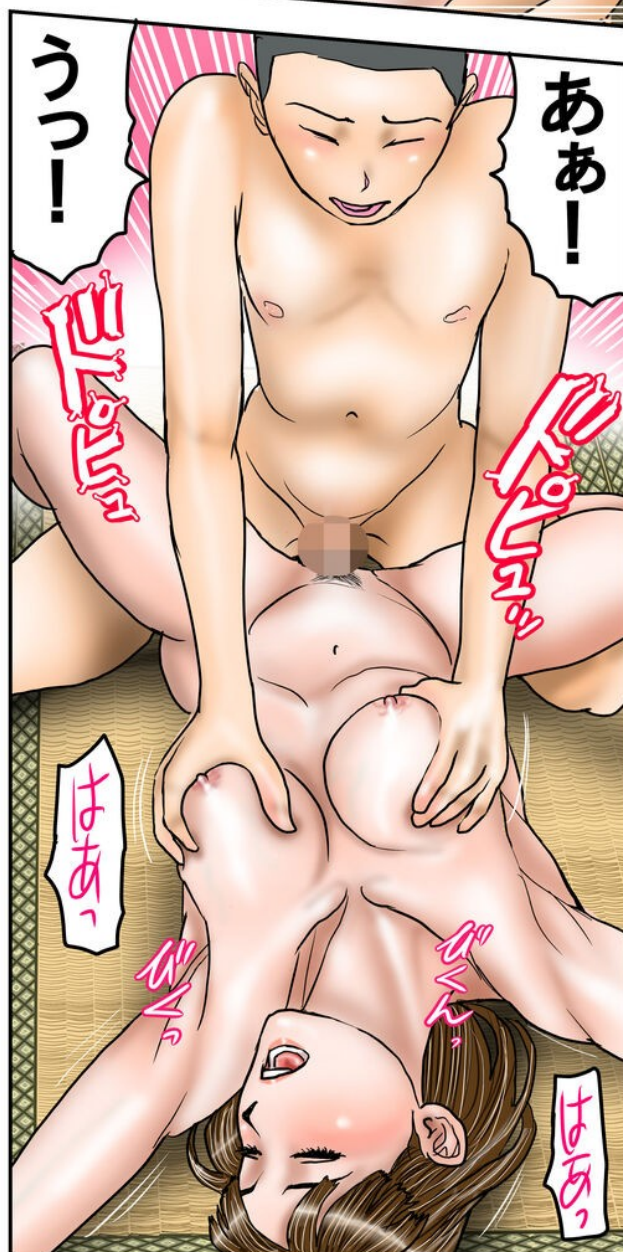
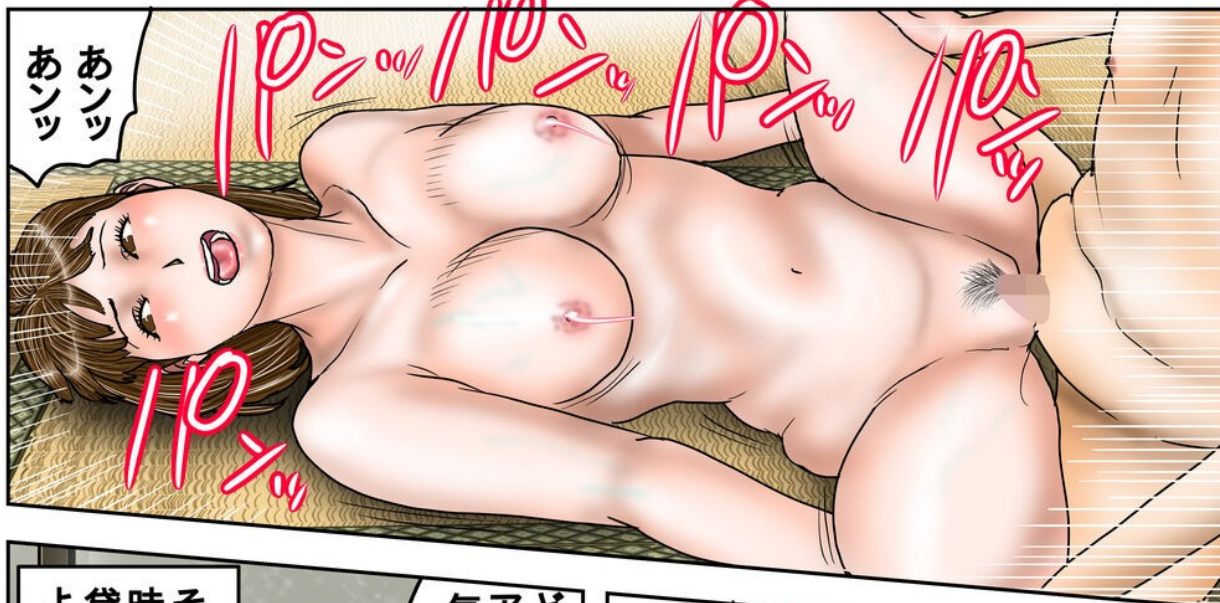


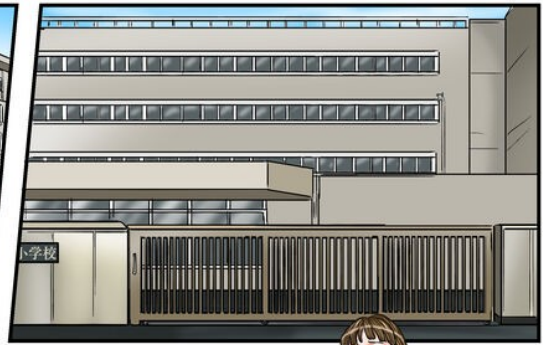
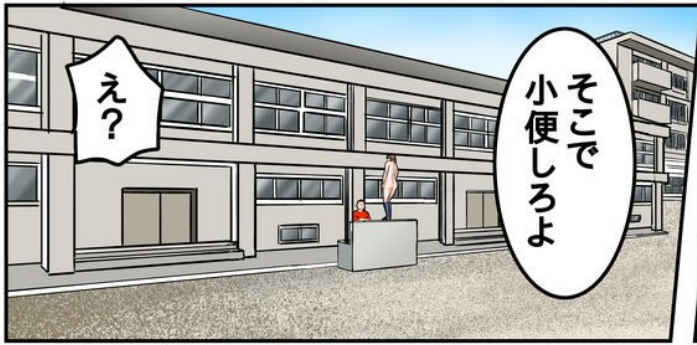


















何休んで
んだよ?

ガバッ

んんん

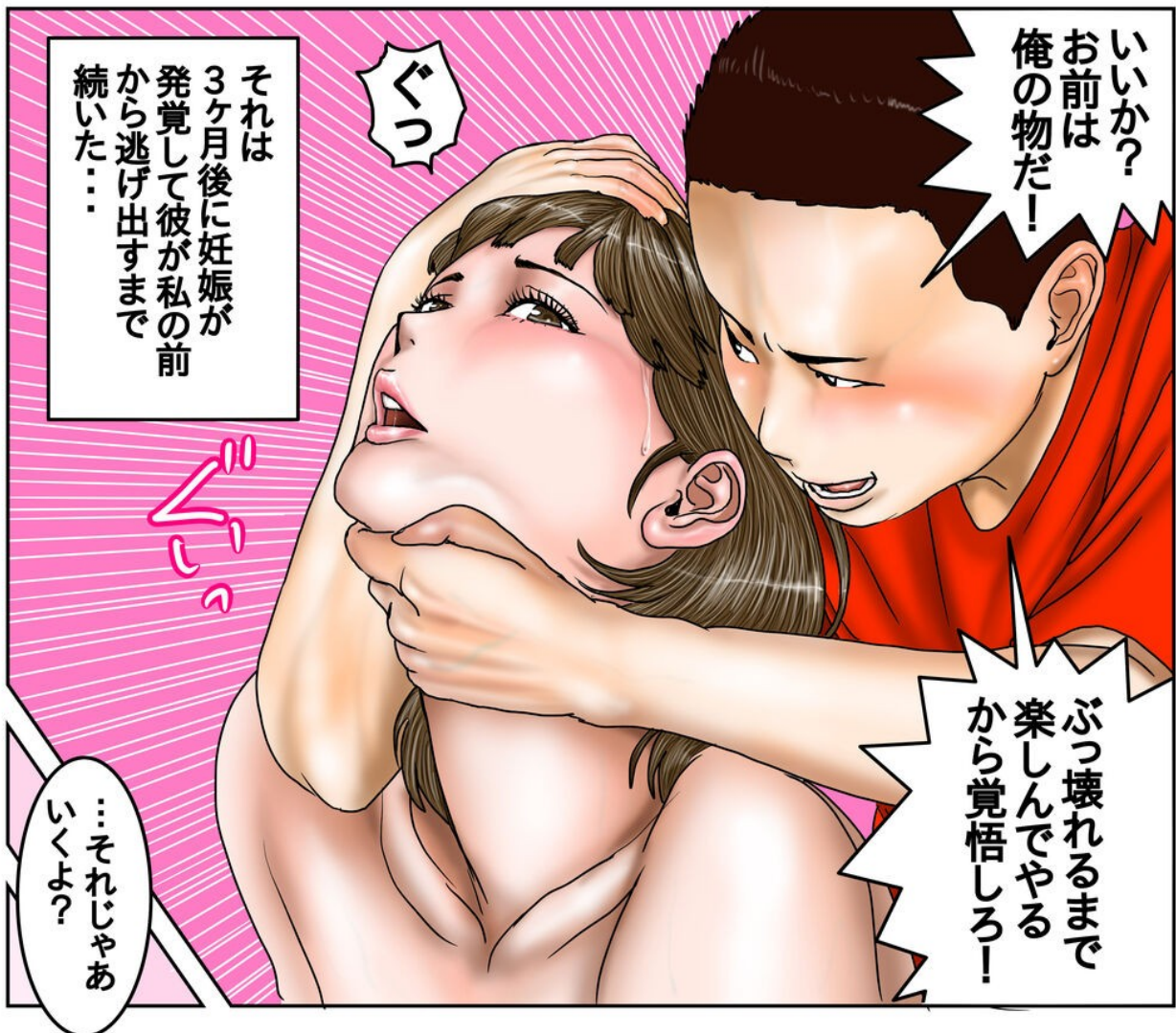


はあ

はあ

たん

ん



いいか?
お前は
俺の物だ!

ぐっ

それは
3ヶ月後に妊娠が
発覚して彼が私の前
から逃げ出すまで
続いた...

ぶっ壊れるまで
楽しんでやる
から覚悟しろ!

...それじゃあ
いくよ?



私に快楽を
与えてくれる
少年に出会った…

そして今…
またあの時
のように…

お願い
します…



